

国立国語研究所学術情報リポジトリ

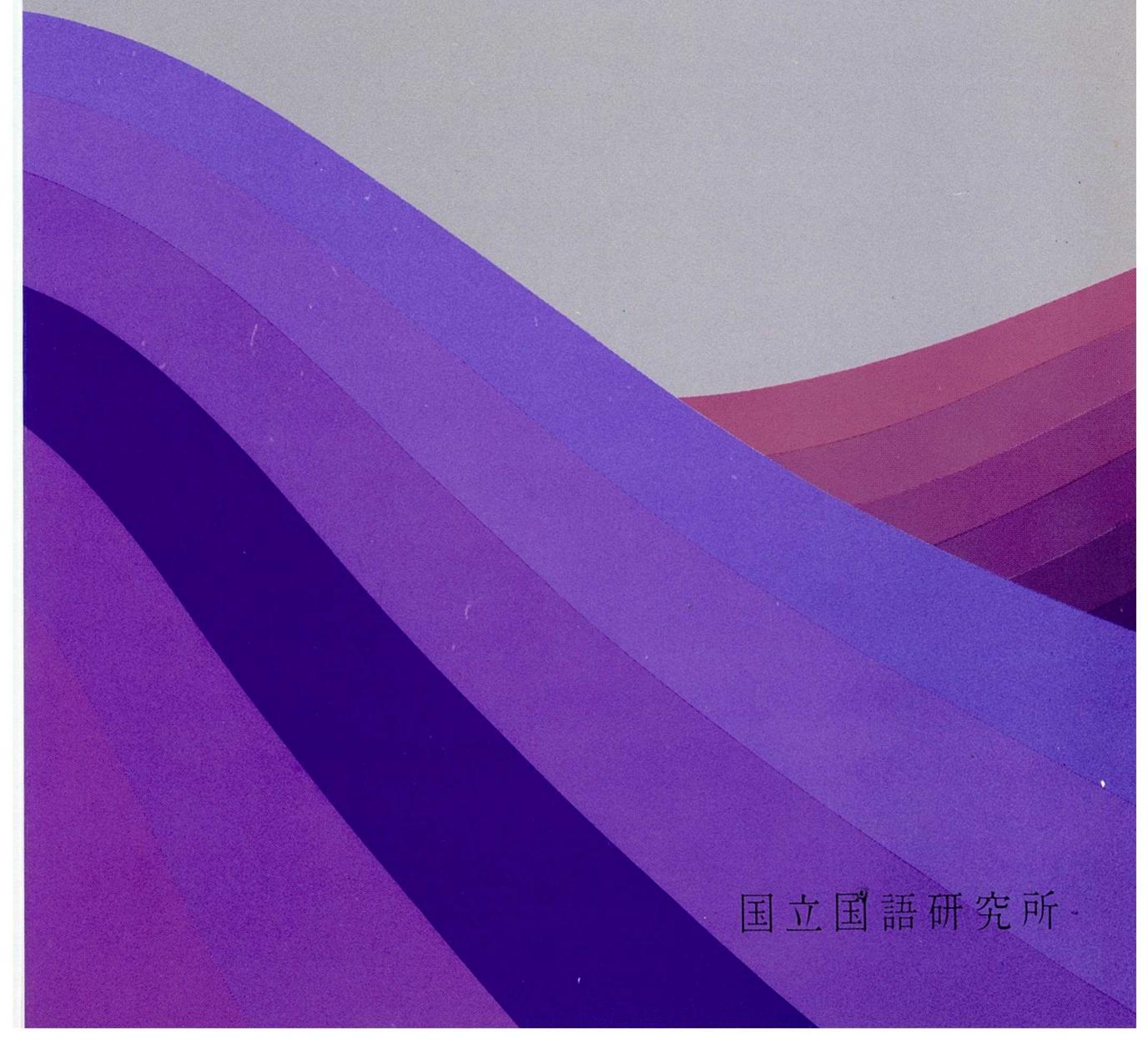
日本語教育映画：基礎編 教師用マニュアル ユニット6(第26巻～第30巻)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-02-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003128

16mmフィルム／ビデオテープ

日本語教育映画 基礎編
教師用マニュアル

ユニット 6 (第26巻～第30巻)



国立国語研究所

前 書 き

この「日本語教育映画基礎編 教師用マニュアル」は、「日本語教育映画基礎編」を効果的に利用するための教授者用手引書として作成しました。

「日本語教育映画基礎編」は、日本語を母語としない学習者が日本語を学ぶための初級用映像教材で、1巻5分から8分の作品30巻で構成されています。各巻、独立した学習内容と主題を持っているので、日本語の授業で教科書と併用する副教材として個別的に利用することができますが、また基礎的日本語能力を実践的に身につけるための教材として、系列的に順次利用することも可能です。

このマニュアルは、映画各巻の学習内容と主題について簡潔に解説し、ユニット（映画5巻分）単位でまとめました。日本語教育映画を効果的に利用するための一助になれば幸いです。

昭和59年11月

国立国語研究所長

野 元 菊 雄

日本語教育映画 基礎編 学習項目表

題名及び副題		主要学習項目	その他の学習項目
1	これは かえるです —「こそあど」+「～は～です」—	1. 「こそあど」の用法 2. ～は～です	1. ～をください
2	さいふは どこにありますか —「こそあど」+「～がある」—	1. 「こそあど」の復習 2. ～があります 3. 「は」と「が」の違いの導入	1. ～は？ 2. ～です 3. います
3	やすくないです、たかいです —形容詞—	1. 形容詞の意味・用法	1. よ、ね 2. 青い色の
4	きりんは どこにいますか —「いる」「ある」—	1. います、あります 2. だれか/だれも、何か/何も	1. 慣用表現 よろしくお願ひします etc.
5	なにを しましたか —動詞—	1. 基本的な動詞の意味・用法 2. ～ます/ました 3. 対象語(目的語)、時、場所の言い方	1. ～時、～時間
6	しづかな こうえんで —形容動詞—	1. 形容動詞の意味・用法	1. 慣用表現 もっといかがですか etc. 2. ね
7	さあ、かぞえましょう —助数詞—	1. 助数詞	
8	どちらが すきですか —比較・程度の表現—	1. 比較・程度の表現 2. ～は～がじょうず/へたです ～は～がすき/きらいです 3. ～は～ができます 4. ～は～が～	1. ～は～がほしい/～たい (cf 18) 2. どちら/どれ/どんな/どの 3. こちら/こっち
9	かまくらを あるきます —移動の表現—	1. 移動に関わる動詞 2. ～ませんか ～ましょう (cf 13)	
10	もみじが とても きれいでした —です、でした、でしょう—	1. ～です/でした/でしょう 2. ～だ/だった(待遇表現) 3. ～に行く/来る (cf 14)	1. ～のです(cf 12) 2. ごろ、ぐらい 3. ～月、～日、期間 4. 時の表現
11	きょうは あめが ふっています —して、している、していた—	1. 「～て」形の導入 2. ～ている、～ていた	1. 数・量の言い方 5分、三人etc. 2. 二人称の〇〇さん 3. ～とも、～でも 4. 前後関係 まず、それからetc.
12	そうじは してありますか —してある、しておく、 してしまう—	1. ～てある 2. ～ておく (cf 21) 3. ～てしまう	1. ～のです 2. 会話の始動・展開・終結の語 3. あいさつななどの慣用表現 いってらっしゃい etc.
13	おみまいに いきませんか —依頼・勧誘の表現—	1. ～をください ～て ～てください ～てくださいませんか ～ませんか ～ましょう (cf 9) ～ないでください	1. ～てもいい 2. ～てはいけない 3. ～なくてはいけない ～なければいけない 4. ～てみる (cf 17) 5. 「で」の用法 6. ～なんです 7. 数・量の言い方 8. 発話の起こし(文の接続)
14	なみのおとが きこえています —「いく」「くる」—	1. 行く/来る 2. ～ていく/くる	1. 動詞による連体修飾
15	うつくしいさらになりました —「なる」「する」—	1. 「なる」「する」の意味・用法	

題名及び副題	主要学習項目	その他の学習項目
16 みずうみのえを かいたことが ありますか —経験・予定の表現—	1. することがある 2. したことがある 3. することにする 4. することになる	1. ~たり、~たりする
17 あのいわまで およげますか —可能の表現—	1. 可能動詞 することができる 2. 可能動詞+ようになる	1. ~やすい/にくい/すぎる 2. ~といい 3. ~ながら 4. ~てみる (cf 13)
18 よみせを みに いきたいです —意志・希望の表現—	1. するつもりだ ~(よ)うと思っている 2. ~たい/たがる ほしい/ほしがる 3. する/している/したところだ 4. したばかりだ	1. 材料「で」(~できている)
19 てんきが いいから さんぽをしましょう —原因・理由の表現—	1. ~から、~ましょう/~ません か/~てください 2. ~ので、~ 3. ~て、~(理由) 4. ~らしい ~ようだ	1. 名詞句化の「の」 2. 存在・非存在の「ある」「ない」 時間がある etc. 3. ~てから~ 4. ずいぶん、せっかく、 すっかり etc.
20 さくらが きれいだそうです —伝聞・様態の表現—	1. ~そうだ (伝聞) 2. ~そうだ (様能) 3. ~ようだ (推定) ~らしい (推定)	1. かしら 2. たしかに、どうやら、 とにかく etc.
21 おかげを みに いつても いいですか —許可・禁止の表現—	1. ~てもいい/ かまわない 2. ~なくともいい 3. ~てはいけない 4. ~なければいけ ない/ならない 5. ~なくてはいけない 6. ~したほうがいい 7. ~するようにしてください	1. ~する前に、~してから 2. ~ておく (cf 12) (cf 13)
22 あそこに のばれば うみがみえます —条件の表現1—	1. ~と、~ 2. ~ば、~ 3. ~たら、~ 4. ~なら、~	
23 いえが たくさんあるのに とてもしづかです —条件の表現2—	1. ~ても、~ 2. ~のに、~ 3. ~けれども、~ 4. ~にもかかわらず、~	1. ~まま
24 おかねを とられました —受身の表現1—	1. 受身の表現(他動詞を中心に)	1. ~と、~した 2. ~(よ)うとする
25 あめに ふられて こまりました —受身の表現2—	1. 受身の表現(自動詞を中心に)	1. ~し、~し、~ 2. ~たびに
26 このきっぷを あげます —やり・もらいの表現1—	1. やる/もらう/くれる	慣用的表現
27 にもつを もって もらいました —やり・もらいの表現2—	1. ~てやる/もらう/くれる	慣用的表現
28 てつだいを させました —使役の表現—	1. 使役の表現 (~てもらう) 2. 使役受身の表現	慣用的表現
29 よく いらっしゃいました —待遇表現1—	1. 敬語	慣用的表現
30 せんせいを おたずねします —待遇表現2—	1. 敬語	慣用的表現

目次

日本語教育映画基礎編 教師用マニュアル

ユニット6

前書き	1
学習項目表	2
この本の構成と使い方	5
第20巻 このきつぷを あげます — やり・もらひの表現 1 —	
目的・構成	7
学習項目	8
やり・もらひの表現 「やる」「あげる」「さしあげる」「くれる」「くださる」 「もらう」「いただく」	
使用にあたって	11
シナリオに沿って	13
第21巻 にもつを もって もらいました — やり・もらひの表現 2 —	
目的・構成	23
学習項目	24
「～てやる」「～てあげる」「～てさしあげる」「～てくれる」「～てくださる」 「～てもらう」「～ていただく」	
使用にあたって	27
シナリオに沿って	29
第22巻 てつだいを させました — 使役の表現 —	
目的・構成	41
学習項目	42
使役の表現 使役形の作り方 被役(使役の受身)の表現	
使用にあたって	44
シナリオに沿って	47
第23巻 よく いらっしゃいました — 待遇表現 1 —	
目的・構成	59
学習項目	60
待遇表現 敬語 あいさつ 店での会話	
使用にあたって	63
シナリオに沿って	66
第24巻 せんせいを おたずねします — 待遇表現 2 —	
目的・構成	81
学習項目	82
待遇表現 使用した敬語について あいさつ	
使用にあたって	86
シナリオに沿って	88
映画およびこの本の作成関係者	102

この本の構成と使い方

映像教材には、中心学習項目のほかに、さまざまな内容がふくまれています。授業に使用するにあたっては、制作者が意図してとり入れた要素もまたそうでない要素も、できる限り細かい検討を行ってから利用計画を立てるのが望ましいことです。事前に知っておくべき内容を教授者が確認し、自分のものにするために、このマニュアルでは、どのような種類の情報が教材のどの部分に出現するか、そしてその情報をどう理解し指導に役立てたらよいか、ということを中心に編集しております。

以下、このマニュアルの構成を追って、編集方針と使い方を述べていきます。

■目的・構成——映画の全体像、内容の把握

各巻の最初のページに、その巻の主要学習項目、ストーリーの流れ、学習項目の出現のようすを表にして示しました。各巻のこのページだけに目を通していくことによって、映画全体の内容把握、また授業計画の作成の参考になります。なお、表の「カウント」と記した空欄は、テープカウンターの数値を書き入れるためのものです。

■学習項目——文法・文型の整理

この映画は、各巻ごとに表現文型を中心にしてあります。主要学習項目で、その巻で取り上げた文法・文型の基本的な意味・用法を、日本語教育の観点から解説しました。その巻を授業で扱うにあたって、文法知識の再確認のために利用できます。

■シナリオに沿って——「語彙」「文法」など項目別に配列

ページの上部にシナリオを提示して、その内容に関する情報や解説を同じページ内に示しました。なるべく他の分冊や他のページを参照することなくそのページだけで必要な情報が得られるように配慮しました。そのため、同じような解説が重複して現れることをあえて許容しています。

全体を「語彙・表現」「文法」「留意点」「生活・文化」の四つの項目にわけてその順に配列し、個々の事項をさがし出しやすくしました。また、ひとつの項目、たとえば「文法」だけをページを追って通読することにより、短時間でその項目についての全体像をつかむということもできます。

以下、四つの項目について述べます。

■語彙・表現

教授者として知っておくべき語句の意味用法と、学習者に与える説明というふたつの観点から、語彙を取り上げました。おもにシナリオに現れた用例について簡

単な語訳を与え、また類似語・関連語のあいだでの意味・用法の異同についても扱っています。対語は「↔」を、その他の関連語は「→」を付して示しました。さらに、映像には出現するが、せりふには現れない語を「映像⇒」という印をつけてまとめました。慣用表現などについても取り上げました。

■文法

せりふとして出現したそれぞれの文は、場面や文脈など多くの要素との関連で形式や意味内容が成り立っています。ここでは「学習項目」で述べた文法知識を前提とし、シナリオの文脈を参照しながら、主要学習項目やその他の文法的な事項がどう運用されているか、解説しております。

■留意点

「文と文、発話と発話のつながり」といった、談話レベルでシナリオをとらえ、その規則や注意すべき点を解説しました。また日本のコミュニケーションのしかたに関する注意など、文法だけに着目していては見すごしがちなものも取り上げ、さらに談話関係に限らず授業にあたって注意しておいたほうがよいことがあれば言及しました。

■生活・文化

日本文化や日本事情に関する知識は、日本で生活したり日本人と接するときに役立つものと考えられます。また、練習の題材として、あるいは学習動機を高めるための素材として教室内で取り上げる必要があります。ここでは生活・文化についてなるべく具体的に説明を加えました。

使用にあたって

以上のはか、巻によってはこの欄を設け、「効果的な使い方」、「練習帳について」の各内容を取り上げています。このうち「練習帳について」は、このマニュアルとは別に刊行している「日本語教育映画 基礎編 練習帳」を授業や自習で使うにあたっての注意点と使い方を述べたものです。また、「トピック」という標題で、おもに生活・文化情報などについて補足説明をした巻もあります。海外の教室などで、特に日本事情の具体的データが不足するようなときに利用できると思います。

――注 意――

このマニュアルは、映画にふくまれる各種情報についての客観資料を提供することを主目的としています。このマニュアルが指導上の教案に代わるものではありませんので、解説した内容のすべてを直接学習者に与えようとすると不適当な場合が生じます。個々の指導目標や学習段階に即して重要度を吟味したうえで、利用できる情報を取り上げるようにしてください。

第26卷

このきっぷを

あげます

— やり・もらいの表現 1 —

目的・構成

1 目的

この映画は、本動詞としての「やり・もらい」の表現を学習の中心としている。つまり、物の移動に関する「やり・もらい」の表現を学習し、同時にそれを通じて待遇表現の初步的理解を目指す。

2 構成

同じ会社に勤める恋人たちの仲たがいによって宙に浮いた2枚の切符が、社内のさまざまな人の手を経て、もとの二人の手元にもどるまでの切符の移動を追う。

	文 場面	ストーリー	学習項目	カウント
I	① ⑤ 東京タワーの見える公園	公園のベンチでけんかする吉田と高橋。宙に浮く歌舞伎の切符。		
II	⑥ ⑯ ⑯ 会社のエレベーターホール	切符、高橋から加藤の手に移る。	「あげる」「いただく」	
III	/	仕事をする加藤たち。		
IV	⑳ ㉑ ㉑ 昼休みの喫茶店	加藤、行けなくなり、田中に相談し、課長に回すことを決める。	「もらう」「くれる」「さしあげる」	
V	㉒ ㉓ ㉓ 会社の事務室	2枚の切符の1枚は、課長に。1枚は、井上に渡ることに。	「さしあげる」「もらう」「あげる」「やる」	
VI	/	植木に水をやる加藤。	(「やる」)	
VII	㉔ ㉕ ㉕ 会社の事務室	1枚の切符、課長から井上の手に移る。	「いただく」「もらう」	
VIII	/	植木鉢に水をやり終える加藤。	(「やる」)	
IX	㉖ ㉗ ㉗ 会社の事務室	課長、行けなくなり、切符は吉田に。	「あげる」「いただく」	
X	㉘ ㉙ ㉙ 高橋のいる事務室	井上の切符、高橋の手に戻る。	「やる」「くれる」	
XI	/	国立劇場	国立劇場で再会した吉田と高橋。	
XII	㉚ ㉛ ㉛ 会社の事務室	切符について話し合う課長と加藤、井上。	「いただく」「やる」「あげる」「くださる」「もらう」	
XIII	/	夜の銀座通り	仲良く歩く吉田と高橋。	

学習項目

1 主要学習項目

① やり・もらいの表現

二人の人物（あるいはそれに類するもの）の間にある物（抽象的な事物も含め）の移動があるとき、右図のようにその与え手をX、受け手をY、事物をAとして、それを表現する方法は三通りに考えられる。

$$\boxed{X \xrightarrow{A} Y}$$

Xの立場でみる場合、Yの立場でみる場合、Aの立場でみる場合である。Xの立場でみる場合は、

Xが Yニ Aヲ V (V=動詞)

という形で表現され、「やる」「くれる」はここに属する動詞である。ほかに「与える」「授ける」「貸す」、また抽象的なAを扱う「教える」などがある。Yの立場でみる場合は、

Yが Xニ／カラ Aヲ V (V=動詞)

という形で表現され、「もらう」はここに属する動詞である。ほかに、「受ける」「授かる」「借りる」「習う」などがある。Aの立場でみる場合はここではふれないが、受身の応用問題で考えてほしい。

② 「やる」「あげる」「さしあげる」

Xが Yニ Aヲ ヤル

という場合、この文は中立的な文、あるいは「Xガ」を中心のある言い方である。したがって第三者間の事物の移動、また話者（もしくは話者側のもの）が主格になる場合の事物の移動に用いられる。

田中さんは石井さんに本をやりました。

わたしは石井さんにノートをやりました。

× 石井さんがわたしにノートをやりました。

映画中では、次のように用いられている。〔〕の中の→は事物の授受の方向を、()の中は話者を示す。

⑦ 井上君にでもやろう。〔(課長) →井上〕

⑧ この切符、やるよ。／⑨ 高橋君にやりました。〔(井上) →高橋〕

⑧⑨は同僚同志（男性）の間の「やる」の使い方であり、⑦は課長（男性）から部下（男性）への、つまり目上から目下への「やる」である。「やる」については待遇表現上、使用基準がゆれていて「やる」を用いないという傾向は女性に特に強い。代わりに「あげる」が用いられる。

⑨ 高橋さんにあげたんですか。〔井上（加藤）→高橋〕

これは、井上（男性）から高橋（男性）への事物の移動について加藤（女性）が述べたものである。また男性でも女性に向かって話すときには「あげる」を用いることがよくある。

⑪ よかったら、あげるよ。〔（高橋・男）→加藤・女〕

⑯ よかったら、あげるよ。〔（課長・男）→吉田・女〕

⑩ 吉田さんにあげたんだよ。〔（課長・男）→吉田・女〕

次は中立的に用いられた「あげる」の例である。

⑫ だれかにあげてください。〔（課長）加藤→だれか〕

⑭ じゃあ、一枚はだれかにあげよう。〔（課長）→だれか〕

「やる」よりけんそんの度合いの高い「あげる」がよく用いられるようになったため、待遇表現上、あらたまって言う場合には「さしあげる」が用いられる。

⑮ 課長さんにさしあげたら、どう。〔加藤（田中）→課長〕

以上は人間関係の中での「やる」の表現であるが、動・植物については「やる」を用いるのが基本的であるといえよう。この映画では次の例のように「やる」を用いた。

⑯ 花に水をやってきます。〔（加藤）→花〕

③ 「くれる」「くださる」

Xガ Yニ Aヲ クレル

という場合、「Yニ」を中心のある言い方である。つまり、Yには話者（もしくは話者側のもの）がくるわけで、

田中さんが石井さんに本をくれました。

という場合でも、石井さんと話者との間には何らかの関係があり、その石井さんにというニュアンスになる。

田中さんはわたしに本をくれました。

× わたしは田中さんに本をくれました。

映画中では次のように用いられている。

⑰ 山田課長がくれたんだが……。〔山田課長→（井上）〕

㉚ 高橋さんがくれたの？〔高橋→加藤（田中）〕

⑲ 山田課長がくれたの？〔山田課長→井上（高橋）〕

㉚㉛では、「（あなたに）くれた（の）？」となっているが、この場合の「あなた」は「わたし+あなた」として「わたし」の続きのように意識されているのである。これは㉚㉛のようによく疑問文で用いられるが、

これは高橋さんがあなたにくれた切符です。

のようにも用いられる。㉚㉛㉛の「くれる」は中立的なニュアンスで用いられて

いるが、相手を尊敬した言い方では「くださる」を用いる。

⑨6 あの切符は、けさ、高橋さんがわたしにくださったんです。

〔高橋→（加藤）〕

④ 「もらう」「いただく」

Yガ Xニ (カラ) Aヲ モラウ

という場合、「Yガ」に中心が置かれた言い方である。

わたしは田中さんに（から）本をもらいました。

× 田中さんはわたしに（から）本をもらいました。

「やる」「くれる」との関係は次のとおりである。

田中さんは石井さんに本をやりました。

→石井さんは田中さんに／から本をもらいました。

田中さんはわたしに本をくれました。

→わたしは田中さんに（から）本をもらいました。

映画中では次のように用いられている。

②1 この切符、高橋さんにもらったんだけど、…〔高橋→（加藤）〕

③9 人にもらったんですが、…〔人→（加藤）〕

⑤8 加藤さんにもらったんだが。〔加藤→（課長）〕

このうち②1③9の「もらう」は中立的な「もらう」であり、⑤8は加藤と課長の関係で用いられた「もらう」である。けんそんした言い方では、「いただく」を用いて次のように言う。

⑨2 課長にいただいた切符は、……〔課長→（井上）〕

使用にあたって

1 効果的な使い方

いわゆる「やり・もらい」の表現の学習にあたっては、実際の物の動きとともに使うべき動詞を教えなければならない。そのため、教室で導入する際に、実際に物を動かし「Aさんは、Bさんにノートをあげました。」とか、「Cさんは、わたしに鉛筆をくれました。」などと言わせるのである。

しかし、「やり・もらい」の上に待遇表現が重なる「いただく、さしあげる、くださる」の導入には、どうしても目上・目下の関係を設定しなければならない。ふつう「先生→学生」という上下関係を設定するが、もっと社会的な上下関係を設定して理解をはかりたいところである。

この映画では、実際の物——歌舞伎の切符が、ひとつの会社の中を移動する。学習者は、この切符の授受と、その際の登場人物の発話から「やり・もらい」の表現の現場に立ち会い、特にその動詞の選択について体得することができよう。

したがって、この映画は「やり・もらい」の導入の段階で見せると効果的である。待遇表現に関わる動詞の選択は、その関係が有効に設定されてこそ理解可能なのである。会社内のような社会的上下関係の確定している場では、おのずから待遇表現も明らかとなる。

ただ、「やり・もらい」に関する動詞の学習を一挙に進めることは、なかなかたいへんであり、この映画を確認用、復習用に使用することも効果は大きい。

2 練習帳について

1ページにストーリーのまとめとして、切符の移動をイラストで示し、授受表現に関係したせりふを穴うめ問題として添えてある。このページを見る前に、何度もビデオを視聴しながら教室作業で切符の移動に関する図を作っていくことなどを検討してほしい。

⑧、⑨は主語の転換による動詞の呼応。⑩で動くものはみな「きっぷ」でよい。

⑫は会話から、「やり・もらい」の文をつくる問題だが、動くものに「やり・もらい」の修飾成分がつく。

⑬の2.は、人がかわることによって動詞をかえる。耳だけでは難しければ、キーを確認させてもよい。

3 トピック

① 日本の劇場

日本の劇場は、東京、大阪、京都、名古屋の4大都市に集中し、特に古典芸能を上演する劇場は、この4市に限られている。

映画では、歌舞伎の切符のやりとりが中心になるが、この舞台は国立劇場である。国立劇場は古典芸能の上演と後継者の養成などを目的として東京に建てられ、主として歌舞伎を上演する大劇場、文楽を上演する小劇場、落語などを上演する演芸場をもつ。また、東京に国立能楽堂、大阪に国立文楽劇場がある。このほかにも、東京の歌舞伎座などで、當時古典が上演されている。

歌舞伎は一般に昼・夜二部立てで上演され、昼の部は11時～12時に開演、夜は4時半～5時に開演する。国立劇場では通常5時開演であり、日本の会社の終業時間は5時がふつうだから、開演時間には遅れる人が多い。まして、映画のように5時半までの仕事などあったら、間に合うことはない。歌舞伎以外では、だいたい6時～7時にはじまることが多い。

劇場は、6時～7時の幕間に、食事をするための長い休み時間がとっている。大きな劇場には、食堂が附設され、劇場の収入の大きな部分を占めているらしく、古典・現代劇を問わず、食事のための幕間を計算に入れた舞台作りがおこなわれている。

開演時間はだいたい一定であるが、終演時間は演目によって一定しない。早いときは8時半、遅くなると10時を過ぎることもある。映画の2人は、おそらく8時半の終演後、劇場のバスで銀座に向かい、8時45分に銀座四丁目の角に立ったものと思われる。

② 七つ面

歌舞伎界を代表する市川団十郎家の得意な演目を大成した「歌舞伎十八番」の一。津打治兵衛・藤本斗文合作、元文5年（1740）江戸市村座初演・原題「姿観隅田川」。現代ではありませんが上演されていない。

登場人物は面打赤右衛門、実は粟津六郎、桜姫、野上の班女、吉田の少将、衆の平内。面打赤右衛門が桜の枝を肩へかけて登場、舞台上手におかれた五つの面箱から尉の面、塩吹の面などが現れる。最後に悪人衆の平内がぬすみとった都鳥の一巻を、武漢の面がくわえ、面箱にとじこもる、というのが筋。眼目は、この筋よりも、初演の海老蔵が五つの面に早替りをする扮装術にあり、これが大好評であった。（以上『総合日本戯曲事典』より）

シナリオに沿って

I	吉田 ① ゼッタイに、いやよ。
	高橋 ② そんなこと言つても……。
	吉田 ③ わたし、帰る。
	高橋 ④ 待てよ。
	⑤ あしたの切符、どうするの。

■語彙・表現

ゼッタイに：どんな場合でも。けっして。→「ゼッタイに行かない」

映像 ⇒ 東京タワー 公園 夕暮れ

■文法

⑤あしたの切符、どうするの。

「の」は疑問を示す。女性や子供が多く使う。「どうするのですか」の「ですか」が省略された形。

■留意点

場面Iは吉田と高橋の口論である。①の「いや」は不同意であり、たとえば、「わたしはゼッタイに行かない。」といったことを表し、③の「わたし、帰る。」は、話者の意志を表す言い方。⑤の「あしたの切符」は、この映画の全体を展開するものである。助詞が省略されて文も短く、口論の平均的な口調である。②の高橋の「～ても」のあとを続けてみよう。

■生活・文化

2人の背後に東京タワーが見える。かつては皇居とならぶ東京見物の中心。展望台に登ると、晴れた日には関東平野から富士山まで眺望でき、首都圏の広さを実感するにはもっともふさわしい場所である。

II	加 藤 ⑥ 高橋さん、おはようございます。 高 橋 ⑦ やあ、おはよう。 ⑧ きょうは、寒いね。 加 藤 ⑨ ええ、とても。 高 橋 ⑩ ああ、そうだ。 ⑪ 加藤さん、この歌舞伎の切符、 よかつたらあげるよ。 加 藤 ⑫ いつのですか。 高 橋 ⑬ きょうのだよ。 加 藤 ⑭ あら、2枚も？ ⑮ いいんですか。	エレベーターホール
----	--	-----------

■語彙・表現

おはようございます：加藤の「おはようございます」に対する高橋の「おはよう」は、男女間の言葉使いの丁寧さの差による。

映像 ⇒ ビルの出入り口 エレベーター

■文法

⑪この歌舞伎の切符、よかつたらあげるよ。

わたし（高橋）は、あなた（加藤）に切符をあげます。

→加藤さんは高橋さんから（に）切符をもらいました。

⑫いつのですか。

「いつの切符ですか」の略。⑬の「きょうのだよ。」も同じ。

⑭2枚も？

加藤の高橋に対する言葉使いから考えて、「わたしに切符を2枚もくださるのですか？」の略。「わたし（加藤）は高橋さんから（に）切符を2枚いただき（もらい）ました。」加藤さんを主格にした客観的記述では「もらう」を用いる。

■留意点

述部を変える練習では「～が」「～に」を省略しない文をいわせること。

II	高橋 ⑯ うん。 ⑰ いらなくなつたから……。	
	加藤 ⑯ じゃあ、いただきます。 ⑯ どうもありがとうございます。	
III		(事務室。仕事する加藤たち。)
IV	加藤 ㉐ あっ。 ㉑ この切符、高橋さんにもらったんだけど、 けなくなつてしまつたんです。	喫茶店
	田中 ㉒ 高橋さんがくれたの？ ㉓ あ、きょうのね。	

■語彙・表現

いらなくなる：いる（必要である）→いらない→いらなくなる

■文法

⑯ じゃあ、いただきます。

「切符をいただきます」。切符の出どころが対話者であるとき、出どころは省略される。

㉑ この切符、高橋さんにもらったんだけど、行けなくなつてしまつたんです。

「高橋さんが、わたしにくれたんだけど」。「だけど」は、前件と後件を対立的に接続している。（第23巻参照）「行けなくなつてしまつた」は、何かの障害がおきて、行くことができなくなったことを表す。（行く→行ける→行けない→行けなくなる）

㉒ 高橋さんがくれたの。

「高橋さんが、あなたにくれたの」。疑問文では、話し相手への物の移動に「くれる」が使える。→「あなたが高橋さんからもらったの」

■留意点

がいして日本語では相手に話が及ぶと、その部分が省略される。

■生活・文化

会社の昼休みはふつう1時間ほどで、昼食と食後の休みにあてられることが多い。

IV	加 藤 ㉔ ええ。 ㉕ だれか行く人、いないでしょうか。 田 中 ㉖ そうね。 ㉗ あっ、そうだ。 ㉘ 課長さんにさしあげたら、どう。 ㉙ 歌舞伎がとても好きだそうよ。 加 藤 ㉚ そうですか。 ㉛ じゃあ、課長にさしあげることにします。
----	--

■語彙・表現

課長さん：一般にある役職にある人を親しみをこめて話題にするとき、その役職名に「さん」をつけて呼ぶ。しかし、部下が当人へ直接呼びかけるときなどには、「さん」をつけない。→「社長さん」「専務さん」「駅長さん」。

■文法

㉘課長さんにさしあげたらどう。 ㉙課長さんにさしあげることにします。

ここでは、平社員加藤から上司の課長への物の移動である。したがって目下の「わたし」を主格にしたとき、この移動には「さしあげる」を使う。㉛では主格は明らかに「わたし（加藤）」だが、㉘では「あなた（加藤）」である。これは「わたしたち」からの、課長への動作とみなしているためである。同じことを課長の側からみると「加藤さんから切符をもらう」ことになる。

㉙歌舞伎がとても好きだそうよ。

「～そうだ」は伝聞を表す。人から聞いたことを相手に伝えている。（第20巻参考）

■留意点

ここではじめて上下関係に基づく待遇表現としての「さしあげる」が出てくる。同じことが視点を変えたとき、どう表現が変わるので、練習が必要なところである。

■生活・文化

昼休みのオフィス街の喫茶店は、一時の休みと会話を楽しむ人であふれる。喫茶店はまた、人と会うための場ともなる。住環境の悪いためか、日本人は人と会うとき、喫茶店を利用する。喫茶店のコーヒーライフは、場所の利用代であると考える人も多い。

V	<p>加藤 ③₂ 課長、ちょっと失礼します。 (昼休みの事務室内)</p> <p>課長 ③₃ うん。</p> <p>加藤 ④₄ この切符、よろしかったら、さしあげますが……。</p> <p>課長 ⑤₅ ほう、歌舞伎だね。</p> <p>⑥₆ きょうのか。</p> <p>⑦₇ 2枚あるね。</p> <p>加藤 ⑧₈ ええ。</p> <p>⑨₉ 人にもらったんですが、急に行けなくなってしまったんです。</p> <p>課長 ⑩₊ じゃあ、もらいます。</p> <p>⑪₋ だけど、ぼくは、1枚だけでいいな。</p>
---	--

■語彙・表現

ちょっと失礼します：この場合、相手の注意を自分に向かせるためのあいさつ言葉。

人：人物を特定する必要のないときに使う。

急に：突然。→ 急に雨が降り出した。

映像 ⇒ スチール・キャビネット デスク

■文法

④₄この切符、よろしかったらさしあげますが……。

「わたしは、課長に切符をさしあげます」。課長からみると「切符を加藤さんからもらう」。

⑨₉人にもらったんですが、……

「人がくれた」としても同じ。どちらを使うにせよ、「わたし」は省略する。省略しないと、特に自分がもらったものをわざわざあげるという恩着せがましい言い方になる。

⑩₊じゃあ、もらいます。

④₄を課長からみた言い方。出どころの「あなた」は省略する。

V	加 藤 ④② それでは、だれかにあげてください。 課 長 ④③ そうかい。 ④④ じゃあ、1枚はだれかにあげよう。 加 藤 ④⑤ ええ、どうぞ。 課 長 ④⑥ ありがとう。 ④⑦ 井上君にでもやろう。 加 藤 ④⑧ あっ、忘れていた。 ④⑨ 花に水をやってきます。 田 中 ④⑩ あっ、そうね。 ④⑪ お願いするわ。
VI	(植木に水をやる加藤)

■語彙・表現

～君：同格、目下の人の姓を呼ぶときに、姓のあとに「君」をつける。ふつう、男には「君」、女には「さん」だが、女性に「君」をつけることもある。

映像 ⇒ 流し コップ

■文法

④② それでは、だれかにあげてください。 ④④ じゃあ、一枚はだれかにあげよう。
「だれか」を主格にした「だれか (が) もらってください」は不可。「～てください」は依頼表現であり、これは課長への依頼である。課長の意志を示す
④④の文は、やはり「だれか」を主格にした文にはできない。

④⑦ 井上君にでもやろう。

「でも」は軽く例示する助詞。「やろう」は親しい部下に対して使っている。
「あげよう」と言ってもよい。これも④④と同じく課長の意志を示すから、「井
上君」を主格にした文はできない。

④⑨ 花に水をやってきます。

植物には「やる」を使うのがふつう。花への思い入れによっては、「あげる」を
使うこともある。「加藤さんは花に水をやりました」→「花は加藤さんから水
をもらいました」(不可)。

■留意点

文の変換が単純にできない例がでてきたが、そのケースを個別に教える必要はない。
練習は変換できる例をおもにすべきである。

VII	<p>課長 ⑤② 井上君、今夜、何か用事がある？</p> <p>井上 ⑤③ いえ、何もありませんが。</p> <p>課長 ⑤④ 歌舞伎に行かないか。</p> <p>井上 ⑤⑤ ああ、いいですね。</p> <p>課長 ⑤⑥ はい。</p> <p>井上 ⑤⑦ はっ、いただきます。</p> <p>課長 ⑤⑧ 加藤さんにもらったんだが。</p> <p>井上 ⑤⑨ ああ、そうですか。</p>	
VIII	(植木に水をやり終わる加藤)	
IX	<p>課長 ⑥① じゃあ、今夜中に頼むよ。</p> <p>⑥② わたしは、こっちをするから。</p> <p>吉田 ⑥③ どうぞ。 (お茶を出す)</p> <p>課長 ⑥④ ああ、ありがとう。</p>	就業中の事務所内

■語彙・表現

何か用事がある？：イントネーションによる疑問文。疑問の終助詞をつかうなら、「かい」を使って、「なにか用事があるかい？」という。

行かないか：否定疑問文の形をとった勧誘表現。

ああ、いいですね：相手の勧誘を受けるいい方。「ああ」はぞんざいな応対であるが、ここでは親しさを示す。

頼む：→お願いする。してくれるよう依頼する。

■文法

⑤⑦はっ、いただきます。

出どころや対象物を言わない「いただく」。⑮参照。

⑯加藤さんにもらったんだが。

加藤を主格にすると「加藤さんがくれたんだが」。

■留意点

⑤②から⑤⑦の課長から井上への切符の移動、⑥②から⑥④の吉田から課長へのお茶の移動にも注目し、「やり・もらい」の文を作りみよう。

⑥⑩と⑥⑪は、一文であるが、倒置されている。「わたしはこっちをするから、(君は)今夜中に(そっちを)頼むよ。」

IX	吉田 ⑥⁴ たいへんですね。 課長 ⑥⁵ ああ、急に仕事ができてね。 吉田 ⑥⁶ コピーをとりましょうか。 課長 ⑥⁷ じゃあ、これを頼む。 ⑥⁸ そうだ。 ⑥⁹ この切符、よかつたらあげるよ。 吉田 ⑦⁰ ええ…。 課長 ⑦¹ 忙しくなって、行けなくなってしまったんだ。 吉田 ⑦² それでは、いただきます。 ⑦³ ありがとうございます。
X	井上 ⑦⁴ これ、5時半までに頼むよ。 高橋 ⑦⁵ うん、わかった。 井上 ⑦⁶ ところで、今夜、用事あるかい？ 高橋 ⑦⁷ うん……？

■語彙・表現

仕事ができる：「できる」は「生まれる・発生する」→ 用事ができる、子供ができる。

コピーをとる：コピー機を使って複写すること。「コピーする」ともいう。

ところで：話題を変えるときに使う。

■文法

⑥⁹この切符、よかつたらあげるよ。

課長から吉田への切符の移動。「課長は、吉田さんに切符をあげました。」「吉田さんは、課長から切符をもらいました。」

⑦²それでは、いただきます。

⑮参考。対象物の出どころが対話者である場合、それらに言い及ばない。

■留意点

課長から吉田への書類の受け渡しには「やり・もらい」の表現を使わず、「課長は、吉田さんに書類を渡しました。」

X	井 上 ⑧ この切符、やるよ。 ⑨ 山田課長がくれたんだが…。
	高 橋 ⑩ 山田課長がくれた？
	井 上 ⑪ うん。 ⑫ それじゃあ。
XI	国立劇場（再会する吉田と加藤。）
XII	課員B ⑬ お先に失礼します。
XIII	課員A ⑭ お先に。 課 長 ⑮ うん。 加 藤 ⑯ あらー？ ⑰ 課長、歌舞伎には？ 課 長 ⑲ あー、残念だけど、仕事ができてしまって…。

■語彙・表現

山田課長がくれた？：相手の言葉をそのまま繰り返し、自問自答する。このとき、イントネーションは疑問文と同じ形になる。必ずしも相手の答えは期待していない。

お先に失礼します：先に帰る人が、あとに残る人に向かっていうあいさつ語。

映像 ⇒ 舞台 繻帳（どんちょう）

■文法

⑧この切符、やるよ。

男の友人同志の言い方。「あなた」のかわりに「君」をつかい、「この切符、君にやるよ」となる。「あげる」も使われる。

⑨山田課長がくれたんだが…。⑩山田課長がくれた？

「山田課長が切符をくれた。」「山田課長から切符をもらった。」⑪の「だが」のあとは、たとえば「僕もいけないんだ。」のような文がつく。

⑫課長、歌舞伎には？

「行かなかったんですか。」のような後件がつく。

⑲残念だけど、仕事ができてしまって…。

あとには「行けないんだよ。」のような語句がくる。

■留意点

結局、吉田と高橋は国立劇場で顔を合わせることとなった。

XII	加藤 ⑧9 そうですか。
	課長 ⑨0 それで、吉田さんに切符をあげたんだよ。
	⑨1 井上君はあの切符どうした？
	井上 ⑨2 ああ、課長にいただいた切符は、高橋君にやりました。
	加藤 ⑨3 えー？
	⑨4 高橋さんにあげたんですか。
	井上 ⑨5 そうだよ。
	加藤 ⑨6 あの切符は、けさ、高橋さんがわたしにくださったんです。
	井上 ⑨7 えっ、高橋君にもらったの。
	⑨8 じゃあ、あの切符は…。
XII	夜の銀座通り (仲なおりした二人)

■語彙・表現

えー？、えっ：ともに自分の予想外の事態がおきたことに対する驚きを表す。

映像 ⇒ 時計台 街灯 ショーウィンドウ

■文法

⑨0 それで、吉田さんに切符あげたんだよ。

「吉田さんに切符をあげました。」→「吉田さんは課長から切符をもらいました」。「わたし」を主格にすれば「わたし（吉田）は課長から切符をいたしました。」あるいは「課長が切符をくださいました。」

⑨2 課長にいただいた切符は、高橋君にやりました。

「いただく」は課長に対する「わたし（井上）」の謙譲表現。「課長がくださった切符は、高橋君にやり（あげ）ました。」でもよいが、「高橋君がもらいました」は無理。自分を出どころにした文では「もらう」をつかわないのがふつうである。

⑨4 高橋さんにあげたんですか。

出どころが「あなた」である疑問文では⑨2と同じく、「高橋さんがもらう」は使わない。

⑨6 高橋さんがくださったんです。

加藤の丁寧な言葉づかいによる表現。→「高橋さんからいただいたんです。」すべての文をきちんと言う練習をする

⑨7 高橋君にもらったの。

「高橋君がくれたの」に同じ。

■生活・文化

⑨0 以下は切符のやりとりの復習である。すべての文をきちんと言う練習をするとよい。

第27卷

にもつをもって もらいました

— やり・もらいの表現 2 —

目的・構成

1 目的

この巻は、「やり・もらい」が補助動詞として動作の授受を表現する形式を学習の中心としている。さらに待遇表現が重なり合った場合の用法も合わせて学習する。

2 構成

年の暮れの雪国の町。恵子と正男が、たまたま同じ列車で帰省したところから始まり、それぞれの家族の日常的なつき合いや相互の手助けがえがかれている。

	文	場面	ストーリー	学習項目	カウント
I	① ⑪	雪国の駅・ホーム	同じ列車で帰省した恵子と正男が 出合う。正男が恵子の荷物を持つ。	「～てあげる」	
II	⑫ ⑬	駅前	恵子の父が車で迎えに来る。父は 正男にお礼を言い、家まで送る。	「～てくれる／もらう ／あげる／いただく」	
III	⑭ ⑮	雪の道・走る 車の中	正男は恵子の家でする餅つきの手 伝いに行く約束をする。	「～てくれる」	
IV	⑯ ⑰	正男の家の前	正男が車から降りて、送ってもら ったことにお礼を言う。	「～ていただく／くれ る」	
V	⑱ ⑲	正男の家	正男が母に帰宅のあいさつをし、 恵子に会ったことを話す。	「～もらう／くださ る／あげる」	
VI	⑳ ㉑	恵子の家	恵子の家族全員（両親、恵子、弟 の明夫）と正男が餅つきをする。	「～てあげる／やる／ くれる」	
VII	㉒ ㉓	正男の家の外	母と外出から帰宅した正男は、雪 囲いをする父を手伝う。	「～てくれる」	
VIII	㉔ ㉕	正男の家の玄 関	雪囲いが終わって、談笑しながら お茶を飲む正男と両親。	「～てくれる」	

学習項目

1 主要学習項目

事物のやり・もらいは事物を人に与えたり、人から受けたりする場合の表現である。動作のやり・もらいの場合も動作行為を人に与えたり、人から受けたりする授受の表現であるが、その動作が人に関係をもつと同時に恩恵の意味を帯びている。この表現は「動作をする者」と「動作を受ける者」との関係で、三つの型があり、基本的な関係を次のように設定できる。

動作をする者	動作を受ける者	用いる補助動詞
1 (主格) が	(話し手もしくは話し手側の者でない場合)	~てやる、~てあげる、~てさしあげる
2 (主格) が	(話し手もしくは話し手側の者である場合)	~てくれる、~てくださる
3 ~に	(主格) が	~てもらう、~ていただく

(3の場合、「~が~に~てもらう」という言い方になる。)

① 「~てやる」「~てあげる」「~てさしあげる」

動作をする者が主格であり、動作を受ける者が話し手でない(話し手側の者でない)ときに使われる。つまり、動作主を中心のある言い方である。

山田さんは田中さんに薬を買ってきてやります。

わたしはあなたに薬を買ってきてやります。

山田さんはわたしに薬を買ってきてやります。

三つめの例は、「~てくれる」を用い、次のように言う。

山田さんはわたしに薬を買ってきてくれます。

「~てやる」は「~てあげる」が代わって用いられる傾向にある。「~てあげる」は目上の者に対して使われる丁寧な表現であるが、近年では目下の者や身内の者に対しても使われるようになってきている。目上の者に対しては「~てさしあげる」という一段高い表現があるが、どちらにしても動作をする者がわざわざ動作を受ける者の利益になる何かをするというニュアンスが強い。それで、目上の者に対して婉曲で丁寧な言い方をしたいときには、「お~します」の言い方のほうが適当であろう。

先生の荷物を持ってあげます。/さしあげます。

先生の荷物をお持ちします。

動作を受ける者が目下の者であったり、動物であったりする場合、あるいは身内である場合、「~てやる」を用いることは基本であるとされている。

(一人で行くのをためらっている弟に対して)

いっしょに行ってやるから、待っていなさい。

犬に小屋を作つてやります。

学校が遠いので、息子に自転車を買ってやりました。

以上はこの巻では次のように使われている。〔 〕の中の→は動作の授受の方向を、()の中は話し手を示す。

⑤ 持つてあげるよ。〔(正男) → 恵子〕

㉙ 送つてあげよう。〔(恵子の父) → 正男〕

㉜ 正男、今年もおもちつきを手伝つてあげるんでしょう。

〔正男 (正男の母) → 恵子の家族〕

㉘ 恵子、正男君にてぬぐいを持ってきてあげなさい。

〔恵子 (恵子の父) → 正男〕

㉗ あつ、明夫にも持つてきてやりなさい。

〔恵子 (恵子の父) → 明夫〕

㉙ 明夫、それを持っていてやるよ。〔(恵子の父) → 明夫〕

㉚ 恵子、代わつてあげるわ。〔(恵子の母) → 恵子〕

② 「～てくれる」「～てくださる」

動作をする者が主格で、動作を受ける者が話し手(話し手側)の場合に使われる表現である。つまり「～てあげる」との違いは動作を受ける者に中心が置かれた表現であることで、外国人学習者には習得に少々困難な場合がある。

これは母が(わたしに)買つてくれたのです。

明子さんは(わたしの)妹にセーターを編んでくれました。

× (わたしの)妹は明子さんにセーターを編んでくれました。

動作をする者が目上の場合、あるいは同等であつてもあまり親しくない場合には、敬意を表す意味で「～てくださる」という言い方が使われる。

先生は(わたしたちに)日本語を教えてくださいます。

「～てくれる」「～てくださる」はこの巻では次のように使われている。

㉑ 父が迎えに来てくれるの。〔父 → (恵子)〕

㉛ 正男君、今年も手伝ってくれるかい。〔正男 → (恵子の父)〕

㉜ あした、九時に来てくれるね。〔正男 → (恵子の父)〕

㉝ 送つてくださったの。〔恵子の父 → 正男 (正男の母)〕

㉞ 正男さんが手伝つてくれたので、助かったわ。

〔正男 → 恵子の家族 (恵子の母)〕

㉟ そこのひもを取つてくれ。〔正男 → (正男の父)〕

㉙ ここを押さえてくれないか。〔正男 → (正男の父)〕

⑩ 正男が手伝ってくれたので、早く終わったよ。

[正男→(正男の父)]

上述のように動作を受ける者は話し手、もしくは話し手側の者である。

③ 「～てもらう」「～ていただく」

動作を受ける者を主格とし、その動作が恩恵として受けとられる場合に使われる表現である。「～てやる」および「～てくれる」の文の主語を入れかえて、「～てもらう」の文で言うことができる。

○山田さんは田中さんに薬を買ってきてあげます。

→ 田中さんは山田さんに薬を買ってきてもらいます。

○山田さんはわたしに薬を買ってきてくれます。

→ わたしは山田さんに薬を買ってきてもらいます。

動作をする者が目上の場合、あるいは同等であってもあまり親しくない場合には敬意を表す意味で「～ていただく」という言い方が使われる。

「～てもらう」「～ていただく」は、この巻では次のように使われている。

㉑ そこで会って、荷物を持ってもらったの。[正男→(恵子)]

㉙ それじゃ、乗せていただきます。[恵子の父→(正男)]

㉛ 送っていただいて、ありがとうございました。

[恵子の父→(正男)]

㉕ 恵子さんのお父さんに車で送ってもらったよ。

[恵子の父→(正男)]

使用にあたって

1 効果的な使い方

日常生活の中の実際の会話では、「正男さんはわたしの荷物を持ちました」とか、「正男さん、うちでやるもちつきを手伝いますか」とかいう文は不自然である。しかし、授受表現を学習するまでは、日本語教育の過程的段階として、このような不自然な表現が往々にして行われることが多いのである。授受表現を習って初めて、「(わたしは) 正男さんに荷物を持ってもらいました」とか、「正男さん、もちつきを手伝ってくれませんか」とか言えるわけである。

学習者にとっては授受表現を理解し、それをおぼえることはさして困難なことではないが、その使い方、使うもとになっている考え方、文化などを理解するのは容易なことではない。

映像には、人間関係をも含めた場面を提供してくれるという一大利点があるが、この授受表現も映像によってだれが動作主でだれが受益者であるか、またその間の人間関係などが一目瞭然に示され、使用場面の理解を容易にしてくれる。そこで場面のどこで、どのように、授受表現が使われているかを学習者によく観察させ、理解させることが重要であると思われる。

2 練習帳について

9ページ〔A〕は、登場人物の人間関係で、矢口家と渡辺家という親しい間柄の二つの家族によって話が進められている。

〔B〕は、話し手を中心とした、授受表現の使い方である。

①は、授受表現の文の形をまとめたものである。助詞に注意してほしい。

1. は、動作主と受益者のみが関係する場合であり、2. は二者のほかに物が介在する場合である。3. も、物が介在するが、その物が所有されている場合である。

②は、ひとつの状況をいくつかの授受表現を使って言いかえる問題で、よく練習をして定着を計りたい。

③は、正しい助詞を入れる問題である。

④は、ひとつの授受表現をほかの授受表現に言いかえる問題である。

⑤は、正しいものを選ぶ問題であるが、状況や人間関係をよく理解し把握させることが大切である。〔正解 1—A、2—B、3—B、4—A、B、5—B、6—B、B、7—A、B、8—A、A〕

⑥ビデオを聞いて□に授受表現を入れる問題であるが、その部分だけビデオの音声を消して、考えさせて入れさせる方法もある。

3 トピック

雪囲い：雪国では雪もよい（降雪の前ぶれ）があると、雪の重みで家屋が損害を受けないように、家屋の弱そうなところや窓に丸太・竹棒・板などで支えをしたり、囲いをする。庭木や冬草にも雪折れをおそれて、こもで覆い包む。

餅：加工食品。もち米を蒸し、これを臼でつき、一塊とし適宜の形にしたもの。もち米は一晩水につけておき、翌日ざるにあげて水を切って蒸す。これを臼に入れて米粒の形がなくなり十分粘りの出るまで杵でつく。最近では家庭にも餅つき機が普及し、臼と杵でつく家が減ってきている。

伝統的には、餅は元来「晴れの日」の食物であり、正月の食べ物でもっとも重要なのは餅である。

餅の形は正月の「おかがみ」をはじめ、多くは丸いものとされ、雑煮にも西日本では小形の丸餅をそのまま入れるが、東日本では切餅を用いる場合が多い。

餅の食べ方はいろいろあるが、そのまま食べたり、餡や黄粉をつけて食べたり、乾燥させたあと焼いたり煮たりして食する。雑煮は味噌汁やすまし汁に餅を入れる。

臼：穀物や餅を杵でつくのに使う道具。円筒形の木または石の一方を椀の形にぐってあるもので、その中に穀物などを入れてつく。

杵：穀物・（蒸した米）などを臼に入れてつくための用具。

以上、『世界大百科事典』（平凡社）、『日本民俗事典』（弘文堂）、『国語大辞典』（小学館）を参考にさせていただいた。

シナリオに沿って

I	<p>正男 ① 恵子さん。</p> <p>恵子 ② あら、正男さん、しばらく。</p> <p>正男 ③ しばらくだね。</p> <p>④ それ、重そうだね。</p> <p>⑤ 持ってあげるよ。</p> <p>恵子 ⑥ じゃあ、その荷物、わたしが持つわ。</p> <p>正男 ⑦ うん。</p> <p>⑧ 元気だった？</p>	ホーム
---	--	-----

■語彙・表現

しばらく：久しぶりに会った知り合いに対して言うあいさつ。

元気だった？：しばらく会っていない相手の安否をたずねるあいさつ。

映像 ⇒ 列車 キャスター付きバッグ

■文法

④重そうだね。

「～そうだ」はかばんが見るからに重く見えるという状態を表している。(第20卷参照)

⑤持ってあげるよ。

正男が恵子のために恵子の荷物を持つ。「正男」に中心が置かれた表現。親しい関係にあるから、「～てあげる」が使えるが、そうでなければ「持とうか」「持つよ」と言うだろう。

■留意点

昔からの知り合いらしい二人が雪国の駅に降りたったという導入部は、冬休みに帰省した学生を家族の団らんと、新年を迎えるためのさまざまな年末の行事や準備が待ちうけていることを暗示している。

■生活・文化

年末年始の帰省：日本では勉学のために家を離れている学生ばかりでなく、長く故郷を離れて生活している人は、暮れから正月にかけては故郷に帰り、親子兄弟そろって新年を迎える習慣がある。一般の会社も年末・年始めは休暇になる。

雪国の駅、および駅の周辺が描かれている。ここは、上越線の六日町駅。新潟県にあり、群馬県との県境に近い山間部である。

I	恵子 ⑨ ええ。 ⑩ 正男さんも？ 正男 ⑪ うん。	
II	⑫ 恵子さん、バスで帰るの？ 恵子 ⑬ 父が迎えに来てくれるの。 ⑭ あっ、来たわ。 ⑮ お父さん。 恵子の父 ⑯ おお。 ⑰ 正男君もこの列車だったのか。 正男 ⑱ ええ。 ⑲ お久しぶりです。 恵子の父 ⑳ しばらくだね。	駅前

■語彙・表現

おお：相手の言葉に対する反応を示す。あらたまつた場面では使えない。男性語。

列車：車両がいくつかつながった鉄道運行上の単位。

お久しぶり：長く会っていないときのあいさつ。→ 久しぶり

映像 ⇒ パトカー バス 商店街

■文法

⑬父が迎えに来てくれるの。

父が恵子（わたし）のために迎えに来る。動作を受ける恵子（わたし）に中心の置かれた言い方。文末の「の」は、⑫⑬⑭⑮にもみられる終助詞。「～のです」の省略された表現といえる。

⑰正男君もこの列車だったのか。

「正男君も恵子が乗って来たこの列車に乗っていたのですか／この列車で帰省したのですか。」「～は～です」の文型を用いている。

■留意点

恵子が正男に対して「父」と言い、父親に直接呼びかけるときは、「お父さん」と言い、また、恵子は正男を「正男さん」と呼び、恵子の父は「正男君」と呼んでいることに注意。

II	恵子	㉑ そこで会って、荷物を持ってもらったの。
	父	㉒ それはどうも。
	正男	㉓ じゃ。
	恵子の父	㉔ さつ、正男君もどうぞ。
	正男	㉕ えつ。
	恵子の父	㉖ 送ってあげよう。
	正男	㉗ いいんですか。
	恵子の父	㉘ どうぞ。
	正男	㉙ それじゃあ、乗せていただきます。
		㉚ じゃ。

■語彙・表現

それはどうも：「それはどうもありがとう」。正男が恵子の重いかばんを持ってくれたことに対して感謝している。

いいんですか：「送ってもらってもいいんですか」の意。

(それ)じゃあ：→「(それ)では」。㉙の「それじゃあ」は前の事柄を受け、そのことをふまえて、次の表現を展開する。

■文法

㉑ そこで会って、荷物を持ってもらったの。

話し手である恵子がそこで正男に会って、正男に荷物を持ってもらった、と父に説明をしている。動作の受け手の恵子（わたし）が主格となった言い方。

㉖ 送ってあげよう。

話し手である恵子の父が、正男のために車で家まで送ろうと言っている。

㉙ それじゃ、乗せていただきます。

目上である恵子の父の申し出に対して、「それでは、その行為をありがとうございます」と敬意を表している。

■留意点

恵子の父が運転する車の助手席にはだれも乗らず、恵子も正男も二人とも後ろの座席に座ったが、これは撮影上の便宜のためであろう。

■生活・文化

重い荷物を持ってもらうという恩恵を受けたのは恵子であり、恵子はすでに正男にその恩恵のお返しに正男のかばんを持っているのであるが、身内である恵子の父も正男に感謝の意を表している。

III	恵子の父 ③� 正月は、いつまでこっちにいられるんだ い。 正 男 ③� 五日までいます。 恵子の父 ③� あ、そう。 ③⁴ ゆっくりできていいね。 恵 子 ③⁵ お父さん、あしたお餅つきでしょう。 恵子の父 ③⁶ ああ。 ③⁷ 正男君、今年も、手伝ってくれるかい。 正 男 ③⁸ ええ。 ③⁹ 何時から始めますか。 恵子の父 ④⁰ 今年は九時ごろからにしようよ。 正 男 ④¹ じゃあ、九時少し前に行きます。	雪道 走る車の中
-----	--	-------------

■語彙・表現

ゆっくりする：1.急がない、急ぐ必要がない。2.ゆとりが十分ある。ここでは、年末年始の休みが比較的長く、正月の五日まで故郷にいられるので、せわしない気分で過ごさなくてもいい、という意。

■文法

③⁵お父さん、あした、お餅つきでしょう。

この「でしょう」は上昇調のイントネーションで発音される。相手に対する問い合わせで、自分が推量した事柄について、相手に確認を求める場合の用法。(10巻参照)

③⁷正男君、今年も手伝ってくれるかい。

恵子の父が正男に対して恵子の家の餅つきを手伝ってくれるかどうか問うているが、「～てくれる」の疑問文はかなり親しい間柄で用いられる。「かい」の「い」は、文末にあって念を押す気持を添える。③¹にも用いられている。

④⁰今年は九時ごろからにしようよ。

「～にする」は意志決定の言い方。この場面では「～にとりかかる」、「行う」の意。

■生活・文化

餅つき：お祝いやお祭りのときには餅を食べるならわしがあるが、特にお正月には餅は欠かせない。それで暮れのうちに餅つきをしておくが、かなりの労力が必要とされるので、人手があるうちではよその家へ手伝いに行く。〔トピック〕参考。

IV	正男	④② 送っていただきいて、ありがとうございました。	正男の家の前
	恵子の父	④③ いや、いや。 ④④ あした、9時に来てくれるね。	
	正男	④⑤ はい。 ④⑥ じゃ、あしたの朝。	
	恵子	④⑦ 待っているわ。	
	正男	④⑧ うん。 ④⑨ じゃ。	
	恵子	④⑩ さようなら。	
	正男	④⑪ ただいま。	
	正男の母	④⑫ ああ、お帰り。 ④⑬ 外は寒いでしょう。	
	正男	④⑭ ううん。 ④⑮ 駅で恵子さんに会ってね。	
	正男の母	④⑯ あら、そう。	

V	正男	④⑪ ただいま。	正男の家
	正男の母	④⑫ ああ、お帰り。 ④⑬ 外は寒いでしょう。	
	正男	④⑭ ううん。 ④⑮ 駅で恵子さんに会ってね。	
	正男の母	④⑯ あら、そう。	

■語彙・表現

いや、いや：いや（否）を重ねて強い打ち消しの意を表す。

ただいま：出先から帰ったときなどのあいさつ。→「お帰りなさい。」

お帰り：「お帰りなさい」の省略形。外出して戻って来た人に対するあいさつ。

ううん：相手に対して否定の意味を示す応答の言葉。→「いや、いいや。」

映像 ⇒ 玄関 ガラス戸 かっぽう着

■文法

④② 送っていただきいて、ありがとうございました。

動作の受け手である正男が、「正男を車で送る」という行為を行った恵子の父に対して、その行為（動作）をいただいて（受けて）、感謝している。

④④ あした、九時に来てくれるね。

恵子の父が正男に対してあした恵子の家で行われる餅つきのために9時に来るのを確認している。

V	正男 ⑤7 恵子さんのお父さんに車で送ってもらったよ。
	正男の母 ⑤8 そう。
	⑤9 送ってくださったの。
	正男 ⑥0 うん。
	正男の母 ⑥1 それはよかったね。

■語彙・表現

映像 ⇒ 石油ストーブ こたつ みかん 急須 湯のみ茶わん

■文法

⑤7 恵子さんのお父さんに車で送ってもらったよ。

「恵子の父が車で送る」という動作を正男が受けた（もらった）と母に告げている。

正男は直接、恵子の父に対して話すときは「～ていただく」という謙譲語を用いて相手に敬意を表しているが、同じ動作を母に話すときは目上の者の動作であるが、敬意を必ずしも表す必要がないので、「～てもらう」を用いている。

⑤9 送ってくださったの。

正男の母が⑤7の正男の話しかけを受けて軽く聞き返している。恵子の父に対して敬意を表して「～てくださる」を用いている。

■留意点

正男が恵子の父に対して「送っていただく」と謙譲語を用い、正男の母も「送ってくださる」と尊敬語を用いている。しかし、同じことを表現するのに、正男が自分の母に主觀をまじえず客観的な事柄として事実を述べる場合、敬意を示す必要もなく「送ってもらう」を使っていることに注意。

■生活・文化

こたつ：冬になると広く用いられている。元々は火を四角いやぐらで囲い、その上にふとんをかける。そこに足を入れて温まる。今では電気こたつが多い。

おみやげ：他人の家を訪ねるときに贈答物を持って行くのは伝統的な習慣であるが、身内に対してもどこか遠くへ行ったときや遠くから帰って来るときは、その行き先の名産品などを持って帰る習慣がある。ふつうはお菓子などの食べ物である。

V	正男の母 ⑥2 正男、今年もお餅つきを手伝ってあげるんでしょう。 正 男 ⑥3 ああ、約束したよ。 ⑥4 はい、おみやげ。 正男の母 ⑥5 ありがとう。 ⑥6 はい、お茶。	
VI	(かけ声) ((と)はい。(それ)はい。(よいしょ)はい。よいしょ っと。) 正 男 ⑥7 あー、あつい。 恵子の父 ⑥8 恵子、正男君にてぬぐいを持ってきてあげなさい。 恵 子 ⑥9 はい。 恵子の父 ⑦0 あっ、明夫にも持ってきてやりなさい。	翌朝、 恵子の家

■語彙・表現

よいしょ：力を入れて物事をする際、またはある動作を起こそうとする際などの掛け声。

はい：相手の注意をこちらに向けさせる場合、また呼ばれて答えたり、相手の言葉を聞いていることを表したりする。

映像 ⇒ 白 杖 土間

■文法

⑥2正男、今年もお餅つきを手伝ってあげるんでしょう。

「今年も恵子の家の餅つきの手伝いをする」という動作を正男が恵子の家のために行うであろうことを正男の母は推量し、正男に確認を求めている。

⑥8恵子、正男君にてぬぐいを持ってきてあげなさい。

餅つきで汗をかいている正男のために「手ぬぐいを持ってくる」という行為をするように恵子の父が恵子に言っている。正男には「～てあげる」を用いて丁寧な表現をしている。

⑦0あっ、明夫にも持ってきてやりなさい。

⑥8と同じ状況であるが、動作を受ける相手が恵子の弟の明夫であるために「～てやる」が用いられている。

■留意点

日本では身内の中で目上の者が目下の者を呼ぶときのみ、⑥2のように呼びすてが行われる。

■生活・文化

てぬぐい：日本で伝統的に使われているさらし木綿の長い布（約33cm×約100cm）で、タオルとしてもハンカチとしても使われる。

VI	恵子 ⑦① はい、どうぞ。
	恵子の母 ⑦② はい、どうも。
	⑦③ よいしょっと。
	恵子 ⑦④ はい、正男さん。
	正男 ⑦⑤ あっ。
	恵子 ⑦⑥ はい、明夫。
	明夫 ⑦⑦ はい。
	恵子の父 ⑦⑧ 明夫、それを持っていてやるよ。
	明夫 ⑦⑨ うん。
	⑦⑩ これで終わりだよ。
	正男 ⑦⑪ それ。

■語彙・表現

それ：掛け声。「それ、始めよう」という意で、^{さか}杵を取り上げて言っている。

映像 ⇒ のし棒 せいろう

■文法

⑦⑧明夫、それを持つていってやるよ。

明夫が汗をぬぐっている間、父が明夫のために「明夫が持っていたせいろうを持っています」という行為を行う。自分の息子に対して行われる行為なので「～てやる」が用いられている。

■生活・文化

餅をのばす：蒸した米は臼の中で杵でつかれ餅となるが、西日本ではこれを小さく丸めて丸餅とする。東日本ではかがみ餅以外は平らにのばし、板餅とし、少しかたくなつてから適当な大きさに包丁で切つて切り餅とする（28巻参照）。のばすときに、うどんやそばと同じように、粉をふりかけ棒でのばす。

蒸籠：木製、四角のわくの底にすのこをしいたもの。かまの上にのせて、赤飯などを蒸す器具。

VI	<p>恵子の父 ⑧2 今度は、わたしがかわろう。</p> <p>正男 ⑧3 じゃ、お願ひします。</p> <p>恵子の母 ⑧4 正男さんが手伝ってくれたので、助かったわ。</p> <p>正男 ⑧5 いいえ。</p> <p>恵子の母 ⑧6 恵子、代わってあげるわ。</p> <p>恵子 ⑧7 そう。</p> <p>⑧8 じゃあ。</p> <p>(かけ声) (はい、(ほっ) はい、(はい) はい。)</p>
----	--

■語彙・表現

お願ひします：他の人に助力や配慮などを求めたり、頼んだりするときに用いる。

はい：合いの手として使われている。「ほっ」も合いの手。

■文法

⑧4正男さんが手伝ってくれたので、助かったわ。

正男がわたしたち（恵子の家族）のために「手伝う」という行為をしてくれたので、わたしたちは助かった、と恵子の母が感謝の意を述べている。

⑧6恵子、代わってあげるわ。

杵で餅にするためついている餅をひっくり返す役をやっていた恵子に、恵子の母が「その役を代わる」という動作を与えようとしている。「～てやる」ではなく「～てあげる」を用いているのは、一般的にいって、女性の方がより丁寧な表現をするという傾向があるからである。

■留意点

明夫はせいろうで蒸したお米を運ぶ役割だが、⑧0の「これで終わりだよ」の「これ」は「このせいろうに入っているお米」という意味で、これからつく餅で餅つきが終わると言っている。

■生活・文化

掛け声。合いの手：ある動作を起こそうとするとき、特にその動作に力が必要なときにひょうしを取ったり、勢いをつけるために出す声を掛け声というが、共同作業をする場合には、この掛け声や間にに入る掛け声である合いの手は、スムーズに作業を進めるのに必要となっている。

VII	正男の母 ⑧ ただいま。 正男の父 ⑨ ああ、お帰り。 正男 ⑩ 手伝おうか。 正男の父 ⑪ ああ。 ⑫ そこのひもを取ってくれ。 正男 ⑬ うん。 正男の父 ⑭ ここを押さえてくれないか。 正男 ⑮ ああ。 (二人で仕事をする。雪が降り続く。) 正男の母 ⑯ お父さん、お茶が入りましたよ。 正男の父 ⑰ ああ、もうすぐ終わりだ。	正男の家
VIII	正男の父 ⑱ あーあ。 正男の母 ⑲ 寒かったでしょう。	玄関

■語彙・表現

お茶が入る：飲料としてのお茶が飲める状態にできていること。→「お茶を入れる」。

あーあ：「ああ」と同じだが、「やっと終わった」とか「これでだいじょうぶ」とかいう感慨が込められている。

映像 ⇒ 雪囲い かなづち 軍手

■文法

⑫ そこのひもを取ってくれ。

雪囲いをしている正男の父が正男に「ひもを取る」という動作をするように頼んでいる。動作の受け手は正男の父である。「~てくれ」と命令形を用いているが、目上や他人であつたら「~てください」とより丁寧な依頼の表現が用いられるところである。

⑯ ここを押さえてくれないか。

正男の父が正男に「ここを押さえる」という動作をするように依頼している。「~てくれ」という命令形に比べると、「~てくれないか」という否定の問い合わせの形は、相手の意向を問う形になるだけ表現が丁寧で遠慮がちな表現となっている。

■生活・文化

雪囲い：豪雪地帯では2~4メートルぐらいの積雪があるため、雪の重みで家屋が倒れないように、いろいろな補強作業を行う。ここでは縁側の軒下に竹の棒で囲いを作り、雪がそれより内に入らないようにしている。

VIII	<p>正男の父 ⑩ 正男が手伝ってくれたので、早く終わつたよ。</p> <p>正男の母 ⑪ これで、大雪が降っても、だいじょうぶね。</p> <p>⑫ ごくろうさま。</p>	雪国の風景
------	---	-------

■語彙・表現

ごくろうさま：他人の骨折りに感謝する言葉。ここでは正男に向かって言われている。目上には用いない。

■文法

⑩正男が手伝ってくれたので、早く終わったよ。

正男が「雪囲いを手伝う」という動作をしてくれたので、動作の受け手として父が、雪囲いが早く終わったことを恩恵を受けたという気持ちで表現している。

⑪これで、大雪が降っても、だいじょうぶね。

⑪は、正男の母や正男の父や正男の労力をねぎらうための表現でもある。「これで」は、正男の父や正男がした作業の結果をふまえた上で、ということを表わしている。（→「これで、だいじょうぶだ／十分だ。」）

「大雪が降っても」の「～ても」は、前件で述べられた内容に対し、後件で相反することを述べる表現。第23巻参照。

■生活・文化

玄関でお茶を飲む：外で仕事をしている途中でお茶の時間になったような場合は、履き物を脱がずに玄関や土間で腰掛けでお茶を飲むことがある。この場面のように仕事が終ったのに、部屋に入らずに玄関でお茶を入れるというのはまれなことと思われる。

第28卷

てつだいを させました

— 使役の表現 —

目的・構成

1 目的

この巻は、使役の表現を中心とし、被役（使役受身）の表現や命令・依頼の人間関係に即した表現が取り扱われている。

2 構成

27巻と同じ雪国の町。大晦日の忙しいときにおばあさんがけがをしたという電話があり、恵子の母は急いでおばあさんの家へかけつける。恵子の家では父と恵子と明夫の三人が忙しく働く。おばあさんのがは大したこともなく、一家は忙しかった一日をふりかえりながら大晦日の夜を過ごす。翌朝新年を迎えた一家は新年を祝い、神社に初詣に行く。

文	場面	ストーリー	学習項目	カウント
I ① ④	恵子の家・大晦日の夜(1)	居間に集まった恵子一家が忙しかった大晦日を回想する。		
II ⑤ ⑯	恵子の家〔回想〕(1)	おばあさんがけがをしたという電話がかかってくる。	「～させる」 (~てもらう)	
III ⑯ ㉑	正男の家〔回想〕	車で送ってほしいという依頼を電話で受けた正男は出かける。	「～させる」	
IV ㉒ ㉓ ㉔	恵子の家〔回想〕(2)	母は正男とおばあさんの家へ行く。帰宅した恵子と明夫は父の指示に従い、掃除や料理をする。正男がもどって来て、報告する。	「～させる」 「～させられる」 (~てくれる) (~なさい)	
V ㉕ ㉖	おばあさんの家〔回想〕	心配をかけたことを詫びるおばあさん。安心して帰宅の途につく母。	「～させる」	
VI ㉗ ㉘	恵子の家・大晦日の夜(2)	居間に集まった恵子一家が忙しかった大晦日を回想する。(続き)	「～させられる」 (~てくれる)	
VII	/ 寺・鐘つき	除夜の鐘がなる。		
VIII ㉙ ㉚	恵子の家	恵子一家が新年のあいさつを交わす。		
IX ㉛ ㉜	雪の降る神社の境内	初詣のあと、正男もいっしょに写真をとる恵子一家。	「～させる」 (~てもらう)	

学習項目

1 主要学習項目

① 使役の表現

この巻では人に何か動作をさせる場合の表現を取り扱っているが、同じ動作をさせるにしても命令・依頼・願望など、いろいろな表現が用いられる。使役は強制する意味をもって人に動作をさせる表現であり、したがって上下関係がはっきりしていたり、相手を強制してやらせることができるように関係にある場合に用いられる。使役にはふたつの使い方がある。

- (1) 積極的な使役：何か動作を積極的にさせるもので、その行為はさせる者の誘発があったので起こったという場合である。強制的な意味をもっている。

父は息子に車の修理をさせました。

この巻で扱われている使役文は、ほとんど「積極的使役文」である。

- (2) 許容：ある動作が起こる状況にあって、それを妨げることもできるが、それをひかえた結果、その動作が起こったという場合である。

- ⓐ 積極的許容：何かをするのに承諾を与えて積極的に許すという場合。

父は息子に自分のタイプライターを使わせました。

この用法は「～てもらう」「～てやる」などといっしょに使うことが多い。

父は息子に自分のタイプライターを使わせてやりました。

先生はわたしたちにおもしろい話を聞かせてくださいました。

この巻では「積極的許容」の用法は現れていない。

- ⓑ 消極的許容：何かをするのに積極的に承諾を与えないが、ある動作の出現・進行を妨げるのひかえるという場合。

(帰る時間だったが、子供が楽しそうに遊んでいたので)そのまま子供を遊ばせた。

この用法の典型的なものに、責任のありかを表す場合に使われるものがある。自分がいたらなかつたばかりに不幸の起こるのを許してしまったというような場合で、必ずしも自分の過失でなくてもよい。「～てしまう」といっしょに使われることが多い。

戦争で子供を死なせてしまった。

- ⑧ みんなを心配させてしまって、すまなかつたね。

積極的な使役と許容の違いは文脈から判断されるものである。使役形を用いて強制する表現をとれない場合は「～てもらう」を用い、その動作を恩恵として受けるという形で表現する。「～てもらおう」「～てもらいたい」の形で使われることが多い。(第26巻参照)

- { ⑩8 じゃあ、明夫に（写真を）とらせよう。
 { ⑩9 じゃあ、正男君に（写真を）とってもらおう。

「～もらいたい」などは、実質的に相手に対する婉曲な命令であることが多い。

わたしはこの仕事をあなたにやってもらいます。

わたしはこの仕事をあなたにやっていただきたいのですが。

② 使役形の作り方

使役形の作り方は、次のとおりである。

五段動詞は、「～ない」形を作り、「ない」の代わりに「せる」をつける。

書く → 書か+せる → 書かせる

読む → 読ま+せる → 読ませる

一段動詞は、不変化部分に「させる」をつける。

食べる → 食べ+せる → 食べさせる

あける → あけ+せる → あけさせる

不規則動詞

くる → こ+せる

する → させ+る

このように作られた使役形は受身形と同じくそれ自身一段動詞となる。使役形はまた短縮形が使われる。これは、基本形と「～て」形で使われることが多い。

書かせる → 書かす

言わせる → 言わす

食べさせる → 食べさす

使役文では、働きかける相手に「に」を用いるか「を」を用いるかという問題がある。他動詞の使役文では相手を「に」で表す。

父は息子に車の修理をさせました。

自動詞の使役文では相手を「に」もしくは「を」で表す。

父は息子を公園へ行かせます。

父は息子に公園へ行かせます。

他動詞の使役文でも相手を「を」で表す場合もあると言えるが、「～を～を」と続くような場合には相手を「に」で表すことになる。相手を「を」で表す「を」使役文と、「に」で表す「に」使役文の基本的な違いは、積極的な使役の場合、「を」使役文は相手の意志を無視した強制的な表現となるが、「に」使役文には相手の意志を尊重したニュアンスを含む表現となる。許容の使役における違いは、おもに許容の違いにあり、「に」使役文の方が許容の意味が強い。したがって、積極的許容では「に」使役文が使われ、消極的許容では「を」使役文が使われるのが自然である。

上記の例文、参照のこと。

③ 被役(使役受身)の表現

強制の意味をもつ「積極的な使役」の場合、動作をさせる相手、つまり動作をするものが被害や迷惑の気持ちをもてば、その受身文が用いられ、被役(使役受身)の表現となる。

娘は母にそうじをさせられました。

⑥九 風呂のそうじをさせられているんです。

被役形は、五段動詞の場合は使役形「せる」に受身形「られる」をつけ加えた「せられる」、一段動詞の場合は「させる」に「られる」を付け加えた「させられる」の形が用いられる。また「せられる」は話し言葉では「される」となることもある。ただし「話す」のように「す」で終わる動詞には「される」は続かない。

歌う → 歌わせる → 歌わせられる (歌わされる)

書く → 書かせる → 書かせられる (書かされる)

食べる → 食べきせる → 食べきせられる

する → させる → させられる

くる → こさせる → こさせられる

使用にあたって

1 効果的な使い方

使役という形は人間関係の上下がはっきりしていて、命令が下せる範囲の中で使われるものであり、相手に直接その行為をするようにいう場合には、命令や依頼の表現が用いられる。たとえば、正男の母は恵子の母に②①「正男をすぐそちらへ行かせます。」といいながら、正男には②④「すぐ恵子さんのうちへ行ってちょうだい。」と依頼している。このように実際には人に何かさせるのに、直接相手に言うときには依頼文になったり、「~てもらう」の形式になったりするということは、教室で説明はできても、実際の場面提供は困難である。そういう意味では映像で自然に現実の場面が与えられるということは、理解に一層効果的である。

この巻では使役表現の許容の意味での使い方は一例しかないが、積極的使役表現が徹底したうえで、もっと上の段階になって許容は練習すべきだと思われる。また被役の表現は、被害の気持ちがはっきりしている場合に使われるものであるから、受身の学習と同時によく教え、練習すべきである。

2 練習帳について

- ②はひとつの状況を命令の形と使役とで表現したもっとも代表的なものである。
- ③は被役の言い方(五段動詞の場合)に短い形のある例である。
- ④は使役の形の作り方で、理解し、覚ぼえるためのものである。被役の形は使役の形ができれば、言えるはずだからあえて書かなかったが、同時に言わせてみるのもいいと考える。
- ⑤は、現実の会話に表れる言い方を考え、被役も授受表現もまぜて、学習者が適当な対応ができるよう考えたものである。使役はもちろん、被役の意味も、授受による表現の使い方も理解していることを前提としている。

3 トピック

正月：現在の暦では西暦による正月を1年の始めとしているが、日本の旧暦では立春を正月の目安としていた。正月とは「正月さま」のやってこられるときである。正月さまはトシの神である。トシとは米のこと、トシの神は米作りの神さまであり、正月に家々にやってきて、今年の稻作の豊作を保証してくださる神である。

暮れの大掃除：正月を迎える準備は、かつては暮れの13日から始まった。暮れの13日は煤はらいといって、一日がかりで家の内外を大掃除をする風習が、江戸時代から明治・大正まで行われていた。それは家中のけがれを清め去って、トシの神を迎えるのにふさわしい祭場とするのである。現在では暮れもおしまってから大掃除をする家が多い。

除夜の鐘：大晦日の夜、寺々で鐘を108回ついて新年を迎える。それは衆生の心を悩まし、身を煩わして、得道をさまたげている煩惱が108あって、そのひとつひとつを破るのだという。除夜の鐘をつくという習俗は日本だけにあるようだ。現在では大晦日の晩、全国の有名な寺院の梵鐘の音がテレビやラジオで放送される。

おせち料理：正月の料理は暮れのうちに作る。おせち、重詰めなど、地方によって呼び名はさまざまであるが、主婦の忙しさは格別である。年越しの膳をおせちというのは、節の食べ物としてトシの神に供え、家内親族もうちそろってお供えしたごちそうにあずかるからである。おせち料理の材料および料理法は、日本人の古い食慣習を伝えている。

雑煮：正月三が日の食べ物は、おせち料理と雑煮というのがふつうで、雑煮の具は、土地により、家によってさまざまである。一般に、関西は白味噌、関東はすまし汁で餅を入れるが、その餅も、東日本ではのし餅かなまこ餅を切った切り餅で、西日本はひとつひとつ丸めた丸餅である。

屠蘇：正月三が日に飲む屠蘇散を浸した酒（みりん）のことで、これを飲めば一年じゅうの邪気を払うといわれる。屠蘇散は漢方の薬で、処方は調剤者によって異なるようである。赤い絹で包み酒に浸す。

初詣：現在では大晦日の夜の12時が年の境と考えられ、夜半から元旦にかけての神参りを初詣、あるいは初参りと呼んでいる。初詣は、所の氏神（産土神、鎮守様）にもうでるというのが、古い形であるが、今では著名な社寺へ、それもその年の恵方にあたる社寺へもうでる風が盛んである。

障子：住宅内部の各区画や出入口や窓口などを仕切るドアのようなもので、明り障子、襖障子、板戸などすべてをさすが、現在では一般に障子というと明り障子のことをいう。明り障子は組格子に紙を張ったもので、ガラスがなかつた時代には紙を通して光が入り、明るかったので明り障子と呼ばれた。紙が古くなると汚くなったり暗くなったりするので張りかえるが、暮れなどに張りかえるのが一般的である。

シナリオに沿って

I	明 夫 ① ああ、やっと終わったよ。 恵子の母 ② ごくろうさま。 ③ 今年も、もう終わりね。 恵 子 ④ 今日は、とても忙しい一日だったわ。	恵子の家 (大晦日の夜)
II	恵子の母 ⑤ はい、矢口です。 ⑥ ……えっ、転んで……。 ⑦ はい、すぐ行きます。	恵子の家 (回想)

■語彙・表現

やっと：→ようやく。やっと終わりました。やっとできました。

終わる、終わり：仕事が終わりました。今年もあと少しで終わりです。

ごくろうさま：人の手助けに感謝を表す。目上には言わない。→「ありがとうございます。」

映像 ⇒ おせち料理 重箱 いろり 自在かぎ 餅 障子はり はけ のり

■文法

⑥えっ、転んで……。

「転んで」のあとに言葉が続かないのは、電話相手の話に驚いたため。後の⑨から考えると「転んで、けがをしたんですか。」という感じ。

■留意点

I の場面は今日一日を振り返る導入部分である。あわただしかった一日がやっと終わり、おせち料理を重箱につめるという新年を迎えるための最後の仕事をしながら、これで今年も終わるのだという感を強くしている。

II の⑥の「転んで」や⑦「行きます」は、だれが転んだのか、またどこへ行くのか、わからないが、何か出来事が起こったことを暗示している。

■生活・文化

いろり：床を四角に仕切って火をたき、煮炊き(おもにお茶や副食の調理)や暖房などに用いる場所のこと。いろりのある部屋は日常生活の中心で、家族も来客もいろりのまわりに座ってお茶を飲んだり、食事をしたりする。また、自在かぎはいろりの火で何か煮たりするために、鍋などを上から吊るして掛けるもの。天井から縄をおろし、その先に木の枝で作ったかぎがついている。山間部や雪国に多く見られたものだが、今ではたいへん珍しい。

電話をかける／受ける：第13巻①、第18巻⑩、第20巻㉕、第29巻㉓、第30巻㉔。

電話を受けたらすぐ名のるのがふつう。

II	恵子の父 ⑧ どうした。 恵子の母 ⑨ おばあさんが転んで、けがをしたそうです。 恵子の父 ⑩ えっ、けがを？ 恵子の母 ⑪ すぐ、行ってきます。 恵子の父 ⑫ うん、それがいい。 ⑬ 恵子に車で送らせよう。 ⑭ 恵子は？ 恵子の母 ⑮ さっき、買い物に行かせました。
----	---

■語彙・表現

けが：→けがをする、けががなれる。

おばあさん：親族呼称で、ここでは「恵子たちのおばあさん」。④⑤参照。

さっき：時間的に少し前であることを表す。

■文法

⑨けがをしたそうです。

「けがをした」と聞いたという伝聞の「～そうだ」。(第20巻参照)

⑬恵子に車で送らせよう。

積極的な使役の表現。→「父は恵子に母を車で送らせる。」「～(よ)う」は、父の意志を表す表現である。⑩参照。

⑮さっき、買物に行かせました。

恵子の母は恵子に「買物に行きなさい。」と命じて行かせたという積極的な使役の表現。

■留意点

元旦を明日にひかえ、新年の準備をすべてこの、一日のうちに終わらせなければならない大晦日である。父親はせっせと障子張りをし、母親はおせち料理を作っている。

「おばあさん」というからには、恵子の父か母の母親であろうが、恵子の母親がかかつけるところからみると、恵子の母の母親かと思われる。

■生活・文化

障子張り：新年を迎えるために障子の紙を新しく張りかえている。ガラス磨きをするのと同じような意味である。

II	恵子の父 ⑯ それじゃあ、正男君に車で送ってもらおうか。 恵子の母 ⑰ はい。	
III	正男の母 ⑯ はい、渡辺です。 ⑯ ……えっ、けがを……。 ⑯ はい、わかりました。 ⑯ 正男をすぐそちらへ行かせます。 ⑯ では。 ⑯ 正男、正男。 ⑯ すぐ、恵子さんのうちへ車で行ってちょうだい。	正男の家 (回想)

■語彙・表現

送る：物を先方に届くように輸送したり送付する意味で使うだけでなく、人が先方に着くように連れていく場合にも使われる。

そちら：「こちら」が自分の側、「そちら」は相手の側、ここでは恵子の家をさしている。

映像 ⇒ 新聞 こたつ

■文法**⑯それじゃあ、正男君に車で送ってもらおうか。**

正男とは親しい間柄なので、気軽に頼みごとができるが、身内ではないので積極的な使役の表現が使えない。それで「～てもらう」を使っている。

⑯正男をすぐそちらへ行かせます。

恵子の母に頼まれた正男の母は、正男を恵子の家へ行かせると返事をしている。積極的使役で、それも必ず行かせるという気持ちなので、正男の意志の有無を考慮していない「を」使役文を用いている。

⑯すぐ、恵子さんのうちへ車で行ってちょうだい。

「～てちょうだい」は「～てください」の意。親しみの気持ちをこめて言うときには用いられるので、多くの場合親しい間柄で用いられる。

■留意点

恵子に対しては「送らせよう」と使役表現を用いているのは、親子という上下関係があるので、正男に対しては、「送ってもらおうか」と、使役は用いず、授受表現を用いていることに注意。言いかえ練習をするといい。

正男の母は恵子の母には「正男を行かせる」と使役文を用いて言っているが、現実に正男に対しては、「行きなさい」とは言わず、「行ってちょうだい」と言っている。これは依頼すれば行ってもらえる関係および状況にあること、また女性は一般によりやわらかく婉曲な表現を用いるということにもよっている。

III	正男 ②⁹ どうかしたの。 正男の母 ⑩ おばあさんかけがをしたそうよ。 正男 ⑪ けがを? ⑫ じゃ、すぐ行くよ。	
IV	恵子の母 ⑬ 恵子と明夫が帰ったら、恵子には料理をさせてください。 ⑭ 明夫にはそうじをさせてください。 恵子の父 ⑮ うん、わかった。 恵子の母 ⑯ あっ、正男さんかしら。 ⑰ すみません、お忙しいところ……。	恵子の家 (回想)

■語彙・表現

かしら：「かしら」は、文末について疑いや問い合わせの気持ちを表す。「正男さんだろう」の意味。（第20巻、21巻参照）

映像 ⇒ 雪 ショール

■文法

⑩おばあさんかけがをしたそうよ。

伝聞の「～そう」。（第20巻参照）

⑬恵子には料理をさせてください。 ⑭明夫にはそうじをさせてください。

恵子の母が恵子の父に恵子には料理をやらせ、明夫にはそうじをやらせるよう頼んでいる。どちらも積極的使役。

⑰すみません、お忙しいところ……。

「ところ」はその状況・場面などをさしているもの。「(大晦日で)あなたも忙しい状況なのに」という意味で用いている。「お」は敬語であるが、慣用的な言い方である。（第29巻参照）

■生活・文化

新年を迎える準備の内容：新年を迎えるにはさまざまな行事や習慣が行われてきているが、暮れもおしつまったく大晦日にやることは家中をきれいにすること、つまり掃除や障子張りなどと、おせち料理を作ることのふたつが代表的な仕事である。

IV	<p>正 男 ④ いいえ、いいんです。</p> <p>恵子の父 ⑤ すみませんね。</p> <p>⑥ いま、恵子が車で買い物に行っているので……。</p> <p>正 男 ⑦ そうですか。</p> <p>⑧ では、行ってきます。</p> <p>恵 子 ⑨ ただいま。</p> <p>明 夫 ⑩ ただいま。</p> <p>恵 子 ⑪ あら、お母さんは？</p> <p>恵子の父 ⑫ おばあさんが、けがをしてね。</p> <p>恵 子 ⑬ えっ？</p> <p>恵子の父 ⑭ それで、正男君の車で出かけたんだ。</p> <p>恵 子 ⑮ たいへんなげ？</p> <p>恵子の父 ⑯ まだわからないんだ。</p> <p>⑰ お母さんがいないから、みんなで正月の準備をしておこう。</p>
----	---

■語彙・表現

いいえ、いいんです：「いいえ、かまいません」、「いいえ、気にしないでください」の意。

お母さん：恵子の父にとって、恵子の母は「お母さん」ではないが、家族の中で母親の役割をする人という意味で子供を中心として考えられた呼称である。

映像 ⇒ なべ ビニール袋(スーパー・マーケットなどの)

■文法

⑰お母さんがいないから、みんなで正月の準備をしておこう。

「～ておく」は何かのために前もってやる言い方で、ここでは「正月の準備をみんなでやろう。(そうすればお母さんが帰って来てからあわてなくてすむ。)」という意。(第12巻参照)

■留意点

父親が台所に入ることはあっても、鍋のふたをあけて料理の出来具合を見るというのは、一般的とはいえない。それで買い物から帰ってきた恵子が、本来なら母親のする仕事をやっている父の様子を不思議に思い、お母さんはどうしたのかと尋ねている。

IV	恵子の父 ④8 恵子は料理をしてくれ。 恵子 ④9 はい。 恵子の父 ⑤0 明夫は、玄関のそうじをしなさい。 明夫 ⑤1 はい。 ⑤2 玄関のそうじ、終わったよ。 ⑤3 じゃあ、次は風呂のそうじをしてくれ。 明夫 ⑤4 風呂のそうじ？ 恵子 ⑤5 お父さん、ちょっとこのふたをあけて。 恵子の父 ⑤6 うーん。 恵子 ⑤7 あっ。 ⑤8 じゃあ、明夫にあけさせるわ。 恵子の父 ⑤9 風呂場にいるよ。
----	---

■語彙・表現

映像 ⇒ ほうちょう まないた ほうき ちりとり ゆぶね ブラシ びん

■文法

④8 恵子は料理をしてくれ。⑤3 じゃあ、つぎは風呂のそうじをしてくれ。

「~てくれ」のぞんざいな言い方。「くれる」の命令形「くれ」を用いでいる。ここでは上下の関係がはっきりしているので「~てくれ」が使える。ふつう女性は「~てくれ」は使わない。

⑤0 明夫は玄関のそうじをしなさい。

「~てくれ」は「くれる」という動詞の命令形を用いているが、依頼表現である。ところが、「~なさい」はていねいであるが、命令表現である。父は明夫に玄関のそうじをするよう命じている。

⑤5 お父さん、ちょっとこのふたをあけて。

「あけて」は「~て」の形による要求表現である。親しいもの同志のあいだで用いられる。(第13巻参照)

⑤8 あっ、じゃあ、明夫にあけさせるわ。

きょうだいであっても恵子の方が年上なので、弟の明夫に積極的に何かやらせることのできる立場にあるので積極的使役表現を用いている。

■留意点

本来家事の指揮するのは妻の仕事であるが、この場面では妻がいないので、代わって恵子の父が、恵子たちに指令を出して、家事の指揮をとっている。④8⑤0 は、恵子の母の言葉(②9③0)を自分の言葉として恵子と明夫に伝えたもの。

IV	<p>正男 ⑥⓪ いま、帰りました。</p> <p>恵子の父 ⑥① いやあ、どうもありがとうございます。</p> <p>⑥② けがは、どうでしたか。</p> <p>正男 ⑥③ たいしたことはないそうですよ。</p> <p>恵子の父 ⑥④ そうですか。</p> <p>⑥⑤ まっ、座ってください。</p> <p>⑥⑥ いま、恵子にお茶を入れさせます。</p>
----	--

■語彙・表現

いやあ：「いや」と同じ。感じ入ったときに発する言葉。

たいしたことはない：特に問題はない。→「あの作品は、たいした出来上がりだ。」

「あの映画は、たいしておもしろくない。」

まっ：「まあ」がつまたもの。「ともかく」の意。

お茶を入れる：お茶が飲めるようにすること。

■文法

⑥③たいしたことはないそうですよ。

伝聞の「～そう」。正男は「おばあさんのけがはたいしたことはない」と聞いて帰ってきた。

⑥⑥いま、恵子にお茶を入れさせます。

恵子の父は正男の労をねぎらい、お茶を出そうとする。それで恵子に命じてお茶を入れさせると、正男に言っている。積極的な使役。

■留意点

この場面では正男が恵子の母をおばあさんのうちへ送って行き、おばあさんの具合を聞いて来て、恵子の父に報告しているが、日常生活の中で頼まれた仕事をした後、それについて報告するのはあたりまえのことである。

正男は恵子の父には「たいしたことはないそうですよ」と「です」を用いているが、恵子には「たいしたことはないそうだよ」と⑦④で「だ」を用いている。これは恵子の父には敬意を表し、恵子には同等の者への親しみをこめた使い分けである。

■生活・文化

来客のもてなし：お客様が来たとき、まず座ぶとんを出し、それに座らせ、次にお茶を出すというのはもっとも一般的なもてなししかたである。

IV	正男	(67) 明夫君、お手伝い?
	明夫	(68) はい。 (69) 風呂のそうじをさせられているんです。
	正男	(70) それはたいへんだね。
	恵子の父	(71) 恵子。
	恵子	(72) はーい。 (73) あら、正男さん。
	正男	(74) たいしたことはないそうだよ。
	恵子	(75) そう。 (76) よかったわ。
	正男	(77) おばさんは、夕方には帰ってくるそうだよ。
	恵子	(78) そう。
	恵子の父	(79) 恵子、お茶を入れなさい。
	恵子	(80) あっ、はい。

■語彙・表現

たいへん：ことが重大であることを意味する言葉である(→④)が、「容易でない」、「簡単でない」、「苦労だ」というような意味でも気軽に用いる。

おばさん：よそのうちの中年以上の女人を呼ぶ言葉。ここでは恵子の母のこと。

■文法

⑥風呂のそうじをさせられているんです。

父が明夫に風呂のそうじをさせている(積極的使役)。明夫はそれを仕方なく受け入れてやっているが、決して楽しんでいるわけではない。迷惑に思っている。それでその迷惑の気持ちを受身の表現を用いて表している。この文は「使役」+「受身」、すなわち被役の表現を用いている。

⑦たいしたことはないそうだよ。⑦おばさんは、夕方に帰ってくるそうだよ。
どちらも伝聞の「そう」。(第20巻参照)

⑧恵子、お茶を入れなさい。

命令の「～なさい」を用いて、正男に出すお茶を入れるように恵子に命じている。⑥の表現意図が実行されたもの。

V	恵子の母 ⑧① たいしたことがなくて、安心したわ。 おばあさん ⑧② みんなに心配させてしまって、す まなかつたね。	おばあさんの家 (回想)
	恵子の母 ⑧③ いいえ。 おばあさん ⑧④ じゃあ、そろそろ帰ります。	
	おばあさん ⑧⑤ そうかい。 ⑧⑥ だれかに送らせるよ。	
	恵子の母 ⑧⑦ お正月に、また来ます。 おばあさん ⑧⑧ うん。	
	⑧⑨ みんなによろしく。 ⑧⑩ きょうはありがとう。	
	恵子の母 ⑧⑪ じゃ。	

■語彙・表現

安心：↔心配

すまない：感謝やおわびの気持ちが表しきれない。

そろそろ：それをする時刻または時期になりつつあることを表す。

映像 ⇒ ふとん 水のみ

■文法

⑧①みんなに心配させてしまつて、すまなかつたね。

故意にみんなを心配させようとしたのではない、あること（この場合は転ぶということ）を妨げられず、その結果みんなが心配する状況になってしまったという意味で用いられている消極的許容の使役表現。

⑧⑤だれかに送らせるよ。

おばあさんがだれかに命じて忙しいところをわざわざ来てくれた恵子の母を（車で）うちへ送らせると言っている。積極的な使役表現。

■留意点

これも回想場面だが、恵子の母の回想で、場所はおばあさんの家。寝ているおばあさんのそばに、かけつけた恵子の母が座っている。おばあさんは、たいしたけがではなかったのにみんなに心配させたことを申しわけなく思っている。

■生活・文化

日本式寝具：日本ではたたみの上にふとんを敷いて寝る。敷くふとんを敷きぶとん、上に掛けるふとんを掛けぶとんという。

VI	恵子の母 ⑨2 曜間の電話には、本当にびっくりさせられたわ。 恵子の父 ⑨3 でも、よかった。 明夫 ⑨4 きょうは、一日中、手伝いをさせられてしまった。 恵子の父 ⑨5 明夫も、恵子も、よく働いてくれたよ。 明夫 ⑨6 あっ、除夜の鐘。 恵子の母 ⑨7 今年も、無事に終わったよ。	恵子の家 大晦日の夜
VII	(せりふなし) (除夜の鐘をつく僧)	寺でつく除夜の鐘

■語彙・表現

びっくりする：驚く。「驚く」より話し言葉で使われることが多い。

無事に：特別な問題もなく。→無事に暮らす

■文法

⑨2 曜間の電話には、本当にびっくりさせられたわ。

曜間の電話は私たちをびっくりさせた。私たちはびっくりし、心配した。これは精神的に被害を受けたといえる。そこで迷惑の気持ちの表現が合わさって、被役（使役受身）の表現となって現れている。

⑨3 きょうは、一日中、手伝いをさせられてしまった。

本来ならこれほど忙しく手伝いをすることもなかっただろうに、予期せぬ出来事のため父は明夫に玄関や風呂場のそうじをさせた。明夫はしぶしぶやった。この迷惑の気持ちが、使役の形と合わせて、被役表現となっている。

⑨4 明夫も、恵子も、よく働いてくれたよ。

明夫と恵子が新年を迎える準備の仕事をよくした。その行為の受益者はこの家族全員と言えるが、責任者である父が「～てくれる」を用いて二人の労をねぎらう気持ちを表している。

■留意点

回想の場面が終わり、大晦日の夜の恵子の家の居間に場面がもどる。家族は切り餅を箱に入れたり、おせち料理を重箱に詰めるという新年を迎える準備としては最終段階に入っている。そして忙しかったきょう一日を振り返って話している間にも除夜の鐘が鳴り始め、年が暮れようとしている。

■生活・文化

除夜の鐘：大晦日の夜、仏教の寺でつく鐘の音。

VIII	恵子の父 ⑧ さあ。 恵子の母 ⑨ はい。 恵子の父 ⑩ あけまして、おめでとうございます。 一 同 ⑪ おめでとうございます。	恵子の家 正月
IX	恵子の母 ⑫ そうだ、みんなで写真をとりましょうよ。 恵子の父 ⑬ じゃあ、明夫にとらせよう。 ⑭ おーい、明夫、写真をとってくれ。	神社の境内

■語彙・表現

あけましておめでとうございます：新年になったことを祝うあいさつの言葉。

映像 ⇒ おとそ 雜煮 おせち料理 神棚 だるま 雪 カメラ

■文法

⑬ じゃあ、明夫にとらせよう。

父は明夫に命じて写真をとらせる。積極的な使役。

⑭ おーい、明夫、写真をとってくれ。

「～てくれ」は「～てください」のぞんざいな言い方。父は明夫に写真をとるよう頼んでいる。

■生活・文化

元旦：正月三が日（1月1日から3日まで）は、とそを飲み、おせち料理と雑煮を食べて過ごすが、元旦はまず家族じゅうでとそを飲み、「明けましておめでとうございます」と新年のあいさつをすることで始まる。

とそは、一年の邪気を払う意味で飲まれ、漆器や銀などの特別な用器が用いられるのがふつうだが、ここではふつうのとっくりとちょこが用いられている。これはこの地方の習慣であるようだ。また若年者から順に一人ずつがれるものだが、ここでは父が母と明夫に、そして母が恵子についている。

はつしき初詣：年の始めに神社に詣で、その年一年の多幸を祈願する行事。ここでは雪が降り続いている中を傘をさして神社へ初詣に行く。本来は夜中の12時から朝にかけて詣でるものであるが、家で家族一同新年を祝ってから神社に詣でるというのも一般には広く行われている。この話の場合は恵子の家族に正男が一人だけついて来ている。

IX	明夫 ⑩5 うん、いいよ。 恵子の父 ⑩6 き、ここに並ぼう。 明夫 ⑩7 じゃあ、とるよ。 正男 ⑩8 こんどは、ばくがとりましょうか。 恵子の父 ⑩9 じゃあ、正男君にとってもらおうか。 正男 ⑪0 じゃ。
----	--

■文法――

⑪0 じゃあ、正男君にとってもらおうか。

正男は身内のものではないので、使役表現が使いにくい。それで「～てもらう」を用いている。⑯参照。

第29巻 よく いらっしゃいました

— 待遇表現 1 —

目的・構成

1 目的

基本的な敬語および敬語表現の意味・用法を、具体的な対人関係の中において理解することを中心として学習する。

2 構成

舞台は新緑の京都。若い大学講師夫妻が、京都へやってきた妻の母を迎える場面、大学の研究室で教授と会う場面、また、家族三人で京都見物をする場面からなる。

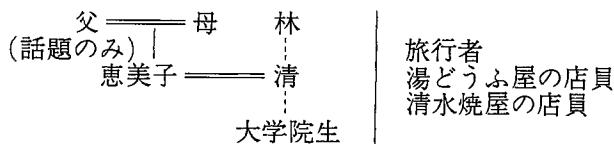
	文	場面	ストーリー	学習項目	カウント
I		京都	夜明けの街		
II	1 ① ↓ ⑯	京都駅	恵美子の母、京都に着く。迎える清、 恵美子。清は二人と別れる。	「いらっしゃる(来る)」「お~する」	
	2 ⑯ ↓ ㉓	タクシー乗り場		「お+名詞」「お+形容詞」	
III	1 ㉔ ↓ ㉙	大学の研究室(1)	清、研究室を訪れるが、教授不在。	「お~になる」「おっしゃる」「いらっしゃる(いる・行く)」「れる/られる」	
	2 ㉕ ↓ ㉚	大学の研究室(2)	林教授入室。清、論文を見せる。	「ご(お)~いただく」「身内のことと他人に話す	
IV	1 ㉖ ↓ ㉗	嵐山	清、旅行者に道を教える。	未知の人と話す	
	2 ㉘ ↓ ㉙	南禅寺	見物する三人。	接頭語の「お」	
	3 ㉚ ↓ ㉛	ゆどうふ屋	湯どうふを食べる三人。	「なさる」「めしあがる」「いただく(食べる)」「お~いただく」	
	4 ㉛ ↓ ㉜	清水三年坂	清水焼屋で湯のみを買う。	「いらっしゃいませ」「ご(お)~ください」「いただく(もらう)」	
	5 ㉝ ↓ ㉞	清水寺	見物する三人。		

学習項目

1 主要学習項目

① 待遇表現

待遇表現とは、言語行動に非言語行動が含まれた待遇行動全般に関するもので、言語行動には、いわゆる敬語と呼ばれるものや、その他の言葉使いがある。待遇表現は、話し手の社会的・心理的判断における対人関係—親疎・優劣などによる相対的なものであり、それだけに、日本語教育においては難かしいものとなろうが、できる限りの具体的な表現の指導が望まれる。この映画での対人関係は以下のとおりである。



② 敬語

日本語の敬語使用には、大まかにいうと、次のような契機があろう。

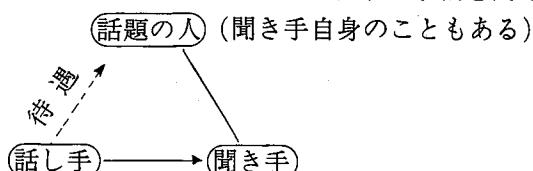
- (a)あがめ——地位、能力、優位性、恩恵(含商売)
- (b)人間性の尊重
- (c)あらたまり
- (d)へだて
- (e)品位、威儀を保つ(皮肉、軽蔑などを含む)

実際には、これらが複雑にからみ合って用いられているのであるが、基礎的学習段階では、このうちまず(b)、(c)を学習しておく必要から日本語導入段階では、丁寧表現の「です、ます」を用いるなどの形で敬語指導が行われている。

敬語には、接辞の問題や、助動詞をつけて語形を変化させる文法的レベルの問題、また語彙レベルの問題もあり、それらは名詞、動詞をはじめ、形容詞、形容動詞、副詞などと関係する。現在は、一般的に次の三種のカテゴリーに分類されるので、これに従い、この映画に現れる敬語を書き抜いてみる。

(1) 尊敬語

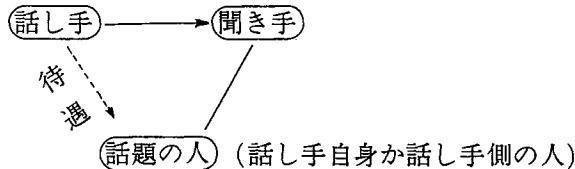
話題の人と、それに関連した物事・事柄を高く扱う。



- ④ 「よくいらっしゃいました。」（「いらっしゃる」）
 ⑤ 「清さん、……。」（「さん」）
 ㉗ 「林先生は、いらっしゃいますか。」（「いらっしゃる」）
 ㉙ 「……図書館へいらっしゃいました。」（「いらっしゃる」）
 ㉚ 「すぐお帰りになります。」（「お～になる」）
 ㉛ 「……お待ちになるようにおっしゃいました。」（「お～になる」「おっしゃる」）
 ㉜ 「……いらっしゃいますか。」（「いらっしゃる」）
 ㉝ 「……来られて、お待ちです。」（「～られる」「お～です」）
 ㉞ 「今いらっしゃいます。」（「なさる」）
 ㉟ 「……お母さんがいらっしゃったんですか。」（「いらっしゃる」）
 ㉟ 「何になさいますか。」（「なさる」）
 ㉟ 「何をめしあがりますか。」（「めしあがる」）

(2) 謙譲語

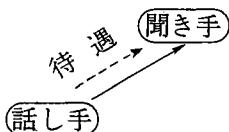
話し手自身、または話題の人とそれに関連した物事・事柄を低く扱い、結果として動作の及ぶ相手や関係者、あるいはこれらに関係するものごとを高める。



- ⑦ 「……お持ちしましょう。」（「お～する」）
 ⑭ 「……ご覧いただけますか。」（「ご覧いただく／いただける」）
 ⑮ 「よろしくお願ひいたします。」（「お～いたします」）
 ㉕ 「ちょっとかがいますが……。」（「うかがう」）
 ㉖ 「……湯どうふをいただきます。」（「いただく」）
 ㉗ 「……お茶をいただけませんか。」（「いただける」）
 ㉘ 「……すぐお持ちいたします。」（「お～いたします」）

(3) 丁寧語

直接の聞き手に対して丁寧にし、敬意を表す。



- ③ 「ごぶさたしております。」（「～ておる」）

「まいる」「いたす」は丁寧語化の傾向にある。「です」「ます」については省略。

(4) 「お(ご)」の用法

(ア) 尊敬語として（「あなたの」という意）

- ⑤ 「……お迎えありがとうございます。」
- ⑦ 「……お荷物、お持ちしましょう。」
- ⑩ 「……お疲れじやありませんか。」
- ⑯ 「……お忙しいのに……。」

(イ) 慣用

- ③ 「ごぶさたしております。」
- ⑧ 「おまたせいたしました。」
- ⑭ 「……ごゆっくり。」
- ⑯ 「……ご覧ください。」（⑭参照）

(ウ) 美化するため（特に女性）

- ⑯ 「林先生とのお約束は？」
- ⑮ 「……お庭ね。」
- ⑯ 「……おとうふが好きよ。」（⑯参照）
- ⑯ 「おいくらですか。」

(エ) 親愛の情をこめて

- ① 「お母さん」
- ⑯ 「……お父さんは元気？」

一般に、漢語には「ご」、和語には「お」がつくが、例外もある。「お」のつきにくいものとして、長い語、外来語、悪感情の語、「お」で始まる語などがある。

③ あいさつ

慣用句として覚えておくと便利である。

- ③ 「ごぶさたしております。」
- ④ 「……よくいらっしゃいました。」
- ⑤ 「……ありがとうございます。」（⑨⑯⑯参照）
- ⑨ 「……すみません。」（⑯⑯参照）
- ⑯ 「……お願ひします。」（⑯参照）
- ⑯ 「いらっしゃいませ。」

④ 店での会話

以下は、買い物などや、事務的な会話の場面でよく用いられる表現である。店員のことばは、特に学習者は使えなくともよいが、店や食堂などで応対されたとき、理解できるようにしたい。

- ⑰ 「はい、かしこまりました。……」（⑯⑯参照）

⑧「おまたせいたしました。」

⑨「すみません。」

⑩「いらっしゃいませ。」

⑪「……ご覧ください。」

⑫「おいくらですか。」

⑬「一円いただきます。」

⑭「ありがとうございます。」

(ここで敬語の待遇の図については、大石初太郎『敬語』(1975 筑摩書房)を参考にさせていただいた。)

使用にあたって

1 効果的な使い方

この映画は、言葉の用法から見て大きく四つの場面に分けて考えたい。

一、親子、夫婦間のことばづかい。①～②③ ⑤⑦～⑥⑧ ⑩⑪～⑫⑯

二、職場、学校内でのことばづかい。④～⑤⑨

三、未知の者どうしのことばづかい。⑤⑩～⑤⑯

四、レストラン、買い物のときの店員と客のことばづかい。⑥⑨～⑩⑯

学習者に待遇表現のすべてを一度に理解させることは、とうてい無理であるし、また日本人自身、その年齢、育った環境や、地域差により、敬語意識に差がある。この映画では、映像を通して具体的な敬語使用の場面を紹介することを第一義とした。教授者は「この場合、私は～と思う。」というコメントを述べることは自由であるが、細かいことにそれていったりしてしまうおそれがあるので、あまり深入りしない方がよいだろう。

敬語の学習前に見せるときは、どのような場面でどのようなことばづかいがされているかチェックさせたり、学習後に見せる場合は、そのことばづかいから人間関係を推理させたり（たとえば、この母は、清、恵美子、どちらの母親か、とか、林、清、大学院生の上下関係や、親疎の状態など）するのもおもしろいだろう。

このとき、待遇表現には、敬語を用いることのみならず、使わないことも含まれることに注意させる必要がある。他人に対しては失礼にあたる「ウン」という返事、「～よ」「～わ」という終助詞などである。また、「です、ます」を使わない形、「さん」をつけない呼びかけが、逆に親愛の情を表すこともある。ボディ・ランゲージ（目の位置や、立つこと、会釈やおじぎとそのときの頭の位置）も、待遇表現のひとつとなることが多いので、登場人物の動作にも注意したい。

何よりも大事なことは、人間関係がごちゃごちゃにならないように整理すること

とである。日本語の待遇表現は、その対人関係により相対的に変化するので、特に、絶対敬語をもつ言語を母語とする学習者には、難しいところかもしれない。

場面IV⑬に、「小川先生が来られて、お待ちです。」とある。尊敬語に「動詞+れる／られる」の形を用いることは、簡単ではあるが、可能や受身の形ともまちがえやすく、尊敬語をすべてこれでませてしまうことには問題がある。一般に「お～になる」の方が「～れる／られる」より敬意が高いと考えられている。

2 練習帳について

学習者は、ふつう、日本においてこの映画のようなこみ入った人間関係はもっていないと思われる。ここでは、日本人どうしでの待遇表現使用の場面を紹介するにとどめておき、映画に現れた表現を、学習者にすべて理解させることは必要ない。大切なことは、学習者が待遇表現を使うであろう次のような場面、

- (a)道をきいたり、買い物をしたりする。
- (b)客人を迎える、または訪問する。
- (c)仕事場で。

で——特に初級の場合(a)において——適切なことばづかいや態度ができるよう指導することである。

①～⑧では動詞について、尊敬語、謙譲語の作り方をしっかりと学習させる。

尊敬を表す「れる／られる」はもし、学習者に余力がなければ、参考程度でよいだろう。ここにあげたもののほかの動詞も、できる限り与えてほしい。

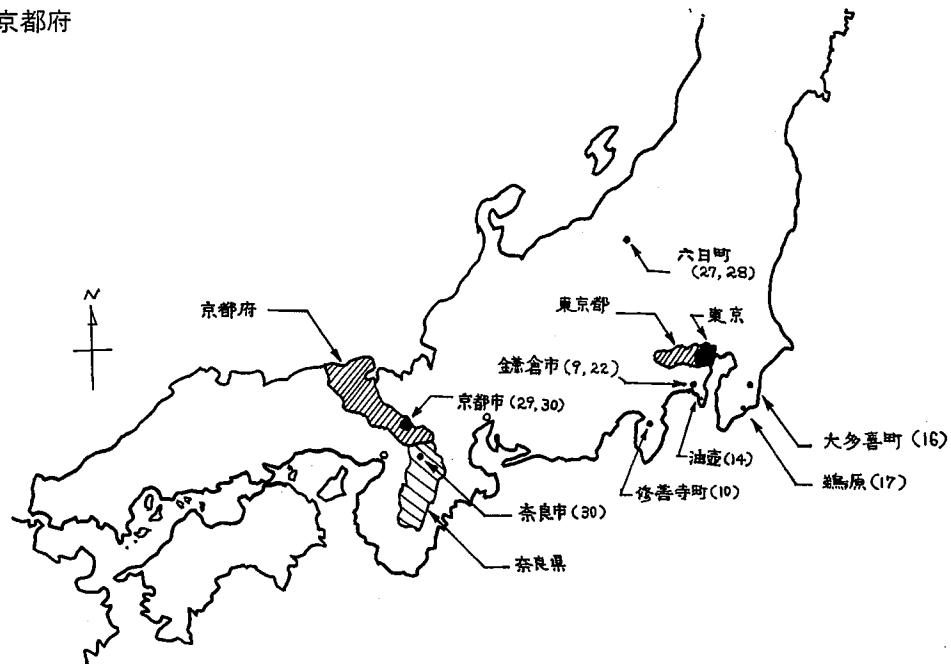
⑨は家族の呼称である。初級の学習者は、「私のお父さん」などといいがちであるが、幼稚な印象を与えるので、しっかりと学習させてほしい。

⑩～⑫では、これまでに学習したものについて、具体的な使い分けができるようにする。⑩は、尊敬語の、⑪は謙譲語の使い方、⑫は学習者が犯しがちなまちがいの例である。⑫の4のように謙譲語を使わず、普通体を用いればよい例もあるので、注意すること。

⑬は決まったあいさつや、丁寧体、普通体の使い分けである。学習者にロール・プレイングをさせるが、ここに示した会話は、あくまでも単なるモデルにすぎないので、これらにとらわれず、学習者本人のことばで話をふくらませられるよう、教師の適切な指導を望みたい。同時に、おじぎなどの日常生活における態度もきちんとできるよう指導したい。

3 トピック

京都府



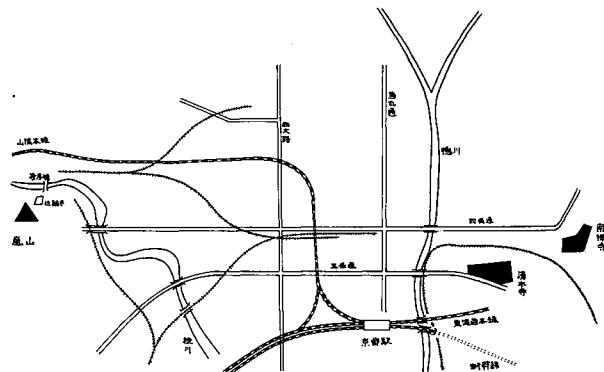
京都市

京都府県庁所在地。京都府南部にある京都盆地の北に位置する。北から南へかけて、賀茂川が流れている。夏は雨量が多く、非常に暑い。冬の底冷えも有名である。

交通は、新幹線（ひかり）で、東京から2時間50分。

794年から、1868年の東京遷都に至るまでの約1000年間、日本の首都であった。中国の都をまねて、碁盤の目状に道を造った、計画都市である。現在は、歴史の都として、寺院や神社をはじめ、染物、織物、焼き物などの伝統産業や、一年を通じて伝統的な行事や祭りも数多く残り、国際的な観光都市となっている。

この映画の舞台となった、嵐山、南禅寺、清水寺一帯の地図を掲げる。



シナリオに沿って

I	(夜明けの京都、全景) (せりふなし)	
II 1	恵美子 ① お母さん。 母 ② あ、恵美子。 清 ③ ごぶさたしております。 ④ よくいらっしゃいました。	新幹線京都駅ホーム

■語彙・表現

ごぶさたしております：あいさつ。長らく会わなかった人に対して用いる。

よくいらっしゃいました：あいさつ。客を迎えるときに用いる。この場合では母の長旅をねぎらっている。(89)参照。

映像 ⇒ ひかり号 エスカレーター

■文法

③ごぶさたしております。

「～ております」は、「～ています」の丁寧な言い方。表現そのものをあらためたものにさせる。丁重語として丁寧語と区別することもある。

④よくいらっしゃいました。

「いらっしゃる」は、「来る、行く、いる」の尊敬語。(27、29、33、37、49参照)。ここでは「来る」の尊敬語である。

■留意点

Iは導入部で、京都の遠景である。左手には東寺の五重の塔、右手には京都タワーが見え、その下には、京都駅をはじめとするビル群がある。向こうには山々が、手前には住宅街と道路があり、自動車が走っている。京都の盆地である地形と過去と現在とが同時に存在する京都の様子や、その歴史などを説明してもよいだろう。

IIで、三人の関係、特に母が「恵美子」は呼びすでにし、「清さん」は「さん」づけにしていることに注意させる。(②、⑤、⑫) 三人のことばづかいから、この女性は恵美子の母親で、恵美子と清とは夫婦であるらしいことがわかる。

■生活・文化

駅の様子：エスカレーター、案内板などがある。駅のアナウンスは、「……ひかり143号……番線に到着……白線までさがってお待ちください……」「京都一、京都です……。」と聞こえる。学生服を着た高校生らしき姿が見える。

II 1	<p>母 ⑤ 清さん、お迎えありがとうございます。</p> <p>清 ⑥ いえ。</p> <p>⑦ あっ、そのお荷物、お持ちしましょう。</p> <p>母 ⑧ そうですか。</p> <p>⑨ すみません。</p> <p>清 ⑩ お母さん、お疲れじゃありませんか。</p> <p>母 ⑪ いいえ。</p> <p>⑫ 清さんも、恵美子も元気そうね。</p> <p>恵美子 ⑬ ええ。</p>
---------	---

■語彙・表現

いえ：軽く「どういたしまして。」の意。

そうですか：ここでは、相手の申し出を受け入れる言い方。イントネーションに注意。

すみません：ここでは「どうもありがとうございます」程度の軽い意味。軽く会釈している。

■文法

⑤お迎えありがとうございます。

動詞「迎える」から転じた名詞「迎え」に接頭語「お」がついている。この「お～」は、「あなたの～」（「あなたが（私を）迎えること」）という意味。丁寧語の意味合いも強い。

⑦お荷物、お持ちしましょう。

「荷物」に「お」がついて、清の、母に対する尊敬語となる。「お持ちする」は、謙譲表現。「お+動詞（連用形）+する」の形。「する」のかわりに「いたす」を用いてもよい。「いたす」は丁重語ともいわれ「いたします」の形で使われる。⑧参照。

⑩お疲れじゃありませんか。

母に対する尊敬語であるが、「疲れじゃ～」とか、「疲れでしょう」とはいわない。「お母さんはお疲れです。」

■生活・文化

おじぎ：④で清が会釈、⑤で母がおじぎをしている。母と娘は特におじぎはしていない。母の方が深いのは、男女差であろう。一般に、女性の方が深くおじぎをする傾向がある。

服装と季節感：母は裕せの着物、帯つきである。恵美子は半そでだが、清は上着を着ている。これから、季節は新緑のころであろうことがわかる。

II 1	恵美子 ⑯ お父さんは元気? 母 ⑯ええ、とても元気よ。	
II 2	恵美子 ⑯ 林先生とのお約束は? 清 ⑯うん。 ⑯お母さん、ちょっと大学に用事が ありますので、失礼します。 母 ⑯まあ、お忙しいのに、すみませんでしたねえ。 清 ⑯では、のちほど。 母 ⑯はい。 清 ⑯これ、たのむよ。 恵美子 ⑯はい。	駅前 タクシーのりば

■語彙・表現

先生：ここでは、大学の教授。

ちょっと～失礼します：この場合は、その場を自分の都合で離れるときのあいさつ。

のちほど：「のちほど、また、お会いしましょう。」の略。

■文法

⑯林先生とのお約束は？

この「お」は、聞き手を意識して、ものの言い方を丁寧にするもの。女性がよく使う。⑤参照。

⑯お忙しいのに、すみませんでしたねえ。

⑤参照。尊敬語の場合、形容詞にも「お」がつくことがある。

■留意点

母と清の間で用いられる敬語が、親子という絶対的な上下関係によっているのではなく、義理の間柄という一種の「よそよそしさ」によるものであることに注意。そのため、母も、清に対しては「です、ます」の丁寧体で会話をしている。⑯では、その場にいない恵美子の父が話題になっているが、母子ともに敬語は用いない。これは親愛の情からくるものであり、もし清なら、「お父さんはお元気ですか。」と言うことになろう。清の、特に⑯における顔の向きや、⑯と⑯のちがいなど、妻とその母に対する態度やことばづかいの差に注意。

■生活・文化

駅前の様子：ある程度以上の大きな駅であれば、駅前に広場や、タクシー乗り場、バスの停留所、たまには駐車場があり、電車から降りてすぐにタクシーに乗ることができる。

III — 1	<p>林 ②₄ ちょっと、図書館へ行ってきます。</p> <p>②₅ 小川君が来たら、待つように言ってください。</p> <p>大学院生 ②₆ はい、わかりました。</p> <p>清 ②₇ 林先生は、いらっしゃいますか。</p> <p>大学院生 ②₈ あっ、小川先生。</p> <p>②₉ いま、林先生は、図書館へいらっしゃいました。</p> <p>③₀ すぐお帰りになります。</p>	林教授の研究室
---------------	---	---------

■語彙・表現

～君：おもに男性が、同輩以下の男性に対して用いる敬称。

はい、わかりました：返事。了解したときにいう。

映像 ⇔ ついたて ソファー 大学院生

■文法

②₇林先生は、いらっしゃいますか。

この場合は、「いる」の尊敬語である。④参照。

②₉林先生は、図書館へいらっしゃいました。

この場合は、「行く」の尊敬語である。④参照。

③₀すぐお帰りになります。

「お十動詞（連用形）+に+なる」による尊敬表現。⑦参照。

■留意点

この場面は、大学である。学校、または職場における待遇表現であることに注意。

この女性は、立場がはっきりしていないが、たぶん、大学院生であろう。林から院生へのことばづかい、また、清と院生との会話内における林への敬語に注意させる。院生が清に対し、「小川先生」と呼びかけていることから、清の職業がわかる。大学の教員——年齢からいって、講師であろう。

■生活・文化

返事をするとき：②₆、②₈において、院生は、立って返事をしている。よほど親しい間柄でないかぎり、立っている相手に対し、座ったままで返事をすることは、失礼だと考えられる。

III 1	大学院生 ③① こちらでお待ちになるようにおっしゃいました。 清 ③② そうですか。 大学院生 ③③ あっ、そちらに、林先生、いらっしゃいますか。…… ③④ はい。 ③⑤ あっ、林先生、小川先生が来られて、お待ちです。 ③⑥ ……はい、お願ひします。 ③⑦ 今、いらっしゃいます。 清 ③⑧ そうですか。 ③⑨ ありがとう。
----------	--

■文法

③①こちらでお待ちになるようにおっしゃいました。

③⑩参照。「お十動詞(連用形) + になる」は、院生から清への敬意を表す。

「おっしゃる」は、「言う」の尊敬語。院生から林への敬意を表す。

③⑤小川先生が来られて、お待ちです。

動詞の尊敬語は、「お～になる」の形ばかりでなく、助動詞「れる／られる」が用いられる。「来られる」は、清に対する軽い敬意を表す。「使用にあたって」参照。「お待ちです」は、「お待ちになっています」の意だが、ここでは「～です」の表現の形が使われている。

③⑦いま、いらっしゃいます。

この場合は、「来る」の尊敬語。④参照。「来る」の尊敬語には、「いらっしゃる」「来られる」のほか、「おいでになる」という言い方がある。30巻参照。

■留意点

②⑤と③①の比較が大切である。清は、林へは尊敬語を、院生へは丁寧語を用いている。林はだれに対してもおもに丁寧語を使っている。院生は二人に対し、尊敬語を用いている。これらのことから、林は三人の中では年配もあり、一番高く待遇される。また院生は清を見知っているが、清は彼女とあまり親しくない、などの三人の関係がある程度わかる。

III — 2	<p>林 ④⓪ ああ、すみません。</p> <p>清 ④① いいえ。</p> <p>林 ④② どうぞ、こちらへ。</p> <p>清 ④③ この間、お話ししたわたしの論文ですが、(林に差し出す)ご覧いただけますか。</p> <p>林 ④④ はい、読ませてもらいましょう。</p> <p>清 ④⑤ よろしくお願ひいたします。</p>
---------------	--

■語彙・表現

すみません：「待たせてすみません」の意。[⑯参照](#)。

いいえ：「どういたしまして。」の意。[⑥参照](#)。

論文：この場合は研究の成果をまとめた文章。

よろしくお願ひいたします：あいさつ。何かを頼んだとき用いる。

映像 ⇒ ロッカー 本棚 洗面台 タオル カレンダー

■文法

④③この間、お話ししたわたしの論文ですが、(林に差し出す)ご覧いただけますか。

「お話しした」は、「お～する」の形で、謙譲表現を含む動詞による連体修飾。

「ご覧いただけますか」は、「見てもらえるか」の謙譲表現だが、「見てください」の意に近い。命令形は尊敬表現になりにくいので、「～していただけます（ません）か」のように、相手の意志を尋ねる形にして敬意を表す。

「～いただぐ」は謙譲語。「いただける」は、その可能形。「ご覧」は、相手が見ることの尊敬語だが、全体で慣用句として覚えた方がよいだろう。

④④はい、読ませてもらいましょう。

文法的には使役形+「～てもらう」の形だが、待遇表現のひとつである。「読みましょう」の意だが、対人関係の配慮から、一步下がった姿勢を保って、相手のためにしてやることであっても、「～させてもらう」ということがある。これは関西系のことばに多いといわれる。

■留意点

教授と講師の会話である。これを、学校内での教師に対することばづかいの例として指導することもできるが、学習者によっては、職場内でのことばづかいとして指導することも必要であろう。(第30巻参照)

■生活・文化

訪問：[④②](#)、[④③](#)において、清はいすをすすめられてから、おじぎをして座っているが、特に相手が目上のとき先に座るのは失礼である。[④①](#)、[④⑤](#)で会釈をしてすることにも注意。

III
2

- 林 ④6 ところで、あしたの休みは？
清 ④7 何か。
林 ④8 ゼミの学生と奈良へ遊びに行くんですが、よかつたらいいっしょに来ませんか。
清 ④9 東京から家内の母が来ておりまして——。
林 ⑤0 ああ、お母さんがいらっしゃったんですか。
清 ⑤1 それで、どこかへ案内しようと思いつますので——。
林 ⑤2 ああ、そうですか。

■語彙・表現

ところで：接続詞。話題を変えるときに用いる。

ゼミ：大学の授業には、講議形式のものと、少人数のゼミ形式のものがある。

奈良：近畿地方の都市。奈良県の県庁所在地。710年から約80年間、日本の都で

あったため、多くの古い寺院や遺跡がある。(第30巻参照)

案内する：行くべき道や、土地の事情を知らせる。

■文法

④9東京から家内の母が来ておりまして——。

身内について、他人に述べるとき、「お母さん」、「奥さん」などとは言わない。「父母、妻、息子、娘、祖父、祖母……」と言う。特に、「妻」に関しては、そのほか、「家内」「女房」「愚妻」など、多くの表現があり、場の雰囲気や相手により、使いわける。⑤0の「お母さん」参照。また①参照。「来ておりまして」は、「来ていまして」の丁寧表現。④参照。

⑤0お母さんがいらっしゃったんですか。

この場合は、「来る」の尊敬語。④参照。

■留意点

④9と⑤0を比較することが大切である。身内に関する話を話題にする場合のことばづかいを徹底させてほしい。また、IIの場面とも比較し、身内意識は、相手との親密度により相対的に変化することを理解させたい。

■生活・文化

誘いを断わるとき：④9⑤1で、清は林の誘いをはっきり断わらない。日本語では、丁寧表現においては直接拒否の表現を避ける傾向が強く、相手の気持ちを傷つけずに断わるには、理由などを先に述べて、それも断わり部分の表現を省略して相手に結論を推測させる、という形をとることが多い。

IV 1	<p>旅行者 ⑤₃ ちょっとかがいますが、法輪寺へはどういったらいいのでしょうか。</p> <p>清 ⑤₄ ああ、法輪寺でしたら、あの橋を渡って、右に曲がるとすぐ左にあります。</p> <p>旅行者 ⑤₅ そうですか。</p> <p>⑤₆ ありがとうございました。</p>
---------	--

■ 語彙・表現

ちょっとかがいますが：ものを尋ねるときの呼びかけ。

どういったらいいのでしょうか：道を聞くときの問い合わせ。

法輪寺：京都、嵐山にある寺。4月13日に、13才の男女が着かぎっておまいりする「十三まいり」で名高い。

映像 ⇒ 燈籠 街灯 瀧

■ 文法

⑤₃ ちょっとかがいますが、

「うかがう」は、「聞く、尋ねる」の謙譲語であるが、ここでは慣用句的に扱っている。「訪ねる」なども含めた用法については、30巻参照。

■ 留意点

他人どうしの会話である。双方とも「です、ます」調の丁寧体を用いていることに注意する。初級の学習者は、ふだんの授業すでにこの程度の敬体は学習していることと思う。また、道を聞く際の会話として、旅行者のせりふを使用文型に、清の返事を理解文型としておきたい。

■ 生活・文化

嵐山：あらしやまこの舞台は嵐山である。嵐山は京都西部にある景勝地。春の桜、秋の紅葉は有名である。また、7、8月にはここの川で鵜飼いが行われる。向こうの橋は渡月橋。

道を聞く：⑤₆において、旅行者がおじぎをし、清、恵美子もそれに返していることに気づく。道を聞いたあと、必ず礼をいうことを忘れないようにしたい。清のおじぎは、「どういたしまして」という意の軽いあいさつである。

IV 2	母 ⑤7 けっこうなお庭ね。 恵美子 ⑤8ええ。 清 ⑤9そろそろ行きましょうか。 母 ⑥0はい。	南禅寺 枯山水
	清 ⑥1お母さん、お昼にしましょうか。 母 ⑥2そうですね。 恵美子 ⑥3あら、こんな時間だわ。 清 ⑥4(恵美子に)何にしようか。 恵美子 ⑥5そうね。	南禅寺 山門

■語彙・表現

けっこう：この場合は、「美しい」とか、「すばらしい」という意。

そろそろ：それほど急ぐ必要はないが、あまりゆっくりしないで次の行動に移つた方がよいという時間的判断を表す。

お昼にする：昼ごはんを食べることにすること。「～にする」は、意志決定の言い方。

映像 ⇒ 枯山水 障子 山門 石燈籠

■文法

⑤7けっこうなお庭ね。

接頭語「お」がついている。この場合は、崇拝すべき寺院の庭に対する敬意を表す（「けっこう」も同様）ともとれるが、女性語として、「庭」には「お」がつきやすい。ほかに、「お花」「お店」「お水」なども女性がよく使う。

■留意点

同じ清に対しての、恵美子と母の返事のちがいに注意。あらたまつては、返事に「ええ」は使えない。

⑥1と⑥4の比較。義母と妻に対する清の問い合わせの違いに注意。

■生活・文化

南禅寺：なんぜんじこの舞台は、京都東部にある南禅寺という禅宗の寺院である。京都五山のひとつである。

枯山水：かれさんすい人工庭園の様式のひとつで、水を使わずに、石や刈り込みを配し、白砂を敷きつめ、山や川などの景色を表現した庭の砂には、水の流れを表すはしき跡がつけられている。もちろん庭に立ち入って、足跡をつけてはいけない。

山門：さんもん寺院の出入口には、山門と呼ばれる大きな門がある。南禅寺の山門は、ことに大きく有名である。

IV 3	恵美子 ⑥6 母はおとうふが好きよ。	
	清 ⑥7 おとうふがお好きなんですか。	
	恵美子 ⑥8ええ。	湯どうふ屋
	店員 ⑥9 どうぞ、こちらの方へ。	
	⑦0 何になさいますか。	
	清 ⑦1 何をめしあがりますか。	
	母 ⑦2 そうですね。	

■語彙・表現

何になさいますか：「何を注文するか」の意。

映像 ⇒ かんばん げた

■文法

⑥6おとうふが好きよ。 ⑥7おとうふがお好きなんですか。

⑥6の場合の「お」は、単に美化語ととってよいであろう。特に女性語。⑤7参照。⑥7で男性が「おとうふ」というのを、奇異に感じる者もいるかもしれないが、特に食べ物などでは「お～」の形が使われることが多い。義母への配慮が働いているととることができよう。「お好き」の「お」は尊敬語である。「お～です」の文型。

⑥9何になさいますか。

「なさる」は「する」の尊敬語。④4参照。

⑦0何をめしあがりますか。

「めしあがる」は「食べる」の尊敬語。

■留意点

⑥6と⑥7の比較。身内意識の有無がわかる。

ここでは接頭語「お」のつき方に注意させる。「お昼にする」は慣用句としてそのまま覚えた方がよいが、「おとうふ」は場面によって使いわけされる。

IV-3からは、店における店員との会話が中心となる。定型的な表現として扱い、理解を図ってほしい。この場面では、特にレストランなどと関連づけるとよいだろう。

■生活・文化

初夏の京都の老舗の雰囲気を味わってほしい。店員が花柄の上衣、もんぺ、赤足袋、ぞうり、前だれという姿。縁台にはござがしいてあり、かすりの座布団、座卓、七輪がある。が、これらの様子は観光用である。

店員のしぐさ：⑥9で、店員は手で方向を示しながら会釈している。指さしはしない。

IV
3

- 母 ⑦⑧ 湯どうふをいただきます。
恵美子 ⑨ じゃあ、わたしも。
清 ⑩ 湯どうふを三つください。
恵美子 ⑪ あっ、冷たいお茶をいただけませんか。
店員 ⑫ はい、かしこまりました。
⑬ すぐお持ちいたします。

■語彙・表現

湯どうふ：湯で熱したとうふに、おもにしょうゆのたれをつけ、ねぎやしょうがの薬味で食べる料理。南禅寺周辺には湯どうふの老舗が多い。

かしこまりました：事務的な事柄に対して了解したという意。店員が客の用件を承知するの意。⑪参照。

■文法

⑦⑧湯どうふをいただきます。

「いただく」は、この場合、「食べる」の謙譲語。丁寧語としての意味が強い。

⑪参照。

⑪冷たいお茶をいただけませんか。

「いただける」は、「いただく」の可能形。「いただく」は、この場合「もらう」の謙譲語。⑪参照。「いただく」は、「もらう」と「食べる」両方の謙譲語

⑪参照。「いただけませんか」は、否定疑問の形でやわらかい依頼。⑪参照。

「～ていただく」の形で、「～てもらう」の謙譲語ともなる。(第27巻参照)

⑬すぐお持ちいたします。

「お～いたす」の形。⑦参照。この場合は、「持ってきます」の意なので、「持ってまいります」ともいえるが、店員の用いる表現として慣用句的に理解しておきたい。

■留意点

店員は、客に関しては尊敬語を、自分に関しては謙譲語を用いることがふつうである。

■生活・文化

冷たいお茶：日本のレストランなどでは、食事の前に水やお茶を無料で出す。お茶はふつうさめていない熱いものを出すので、⑩のせりふは一般的ではない。しかし、湯どうふ屋では冷やしたお茶をサービスしていて、恵美子はそれを知っていたのだろう、と解することができる。

IV 3	<p>恵美子 ⑦9 午後はどこへ行きましょうか。</p> <p>母 ⑧0 そうね。</p> <p>⑧1 清水寺はどう？</p> <p>恵美子 ⑧2 うん。</p> <p>店員 ⑧3 おまたせいたしました。</p> <p>⑧4 どうぞ、ごゆっくり。</p> <p>清 ⑧5 さあ、どうぞ。</p> <p>母 ⑧6 はい、いただきます。</p>
---------	--

■語彙・表現

～はどう？：～に対しての意見を求めている。「～はどうですか」というと、あらたまつた表現になる。

清水寺：p.78およびp.80生活・文化欄参照。

おまたせいたしました：店員の応答、事務的な会話、電話などで用いられる。そう長く待たせなかつたときでも使用する。

どうぞ、ごゆっくり：客にくつろいでほしいときに用いる。

いただきます：食前のあいさつ。ここでは、軽いお礼の気持ちも込めている。

映像 ⇒ おしぶり わりばし 土なべ 土びん ごまどうふ しちりん

■留意点

学習者も、⑧3は電話などで、⑧4、⑧5は客を招いたときなどに応用できる。⑧6は、毎日の生活の中で使えるようになりたい。

■生活・文化

食事の様子：この食事は、店の様子と同様、特殊なものである。とうふ料理は、寺院の精進料理の伝統を持つもので、映像にもごまどうふなどがみえる。映像にある土なべ、土びんなどは今でも常用されている。が、なべものは、元来冬のものであり、ゆどうふも、この季節には、あまり食さない。ここでは、名物なので頼んだのだろう。

おしぶり：日本の食べ物屋では、最近食前におしぶりが出て、手を清めてから食事できることが多くなった。

食前のあいさつ、配膳：店員の「ごゆっくり」とのことばに、清と母は会釈で返している。また、母が、清に一度すすめられてから「いただきます」と言っていることに注意。このとき、きちんと手をひざにおいて、おじぎしている。そのほか、店員の配膳は、両手で静かに行われていること、左手で皿を持って食事をすることも映像からわかる。

IV 4	母 ⑧7 あっ、ちょっと。 ⑧8 すみません(奥の方へ声をかける)。 店員 ⑧9 いらっしゃいませ。 母 ⑨0 これとそれを見せてください。 店員 ⑨1 はい、かしこまりました。	清水・三年坂
---------	---	--------

■語彙・表現

ちょっと：この場合は、「ちょっと待って下さい。」の略。呼びかけに用いる。

すみません：店員を呼び出すときによく用いられる。

いらっしゃいませ：客を迎える際のあいさつ。ふつうの家庭でも用いる。

映像 ⇒ 三年坂 清水焼 ショーウィンドウ

■文法

⑩これとそれを見せてください。

婉曲な命令である。「～てください」は、形は敬語の命令形であるが、働きは依頼や願望を表すことである。親しい間柄では、「ください」を省略し、「～て」ということもある。第13巻参照。

■留意点

買い物の際の、店員とのやりとりである。店員は客に尊敬語で応対するが、だからといって、客が横柄な態度をとるのはよくない。それなりの丁寧なことばづかいをする。また、「いらっしゃい(ませ)」は、家庭でも客を迎えるときに使えるようにしたい。同時に、深くおじぎをしていることに注意。

■生活・文化

清水寺：きよみずでら京都西部、音羽山にある寺院。西国第十六番の札所。清水焼と呼ばれる焼物は有名である。寺までのゆるい坂道には、両側にみやげ物屋が並んでいる。この場面も、そんな店の一つを舞台にしている。店の中には、とっくり、ゆのみ、抹茶茶碗、コーヒーカップなどが見える。店員は着物に、白いかつぽう着姿であるが、これは、現在では若い人にはあまり見られなくなつた。

IV
4

店員 ⑨2 どうぞ、ご覧ください。
 恵美子 ⑨3 すてきね。
 ⑨4 わたしも、こんなのがほしいわ。
 母 ⑨5 じゃあ、買ってあげるわ。
 恵美子 ⑨6 わあ、ありがとう。
 母 ⑨7 これを別々に包んでください。
 店員 ⑨8 はい、かしこまりました。

■語彙・表現

じゃあ：「(それ)では」の意味の、口語における接続詞、「じゃ」ともいう。

わあ：喜びや、驚きを表す。

別々に：ひとつ、ひとつの意。

包む：一枚の紙や布で、品物の形に合わせて全体をおおう。

■文法

⑨2どうぞ、ご覧ください。

「見てください」の尊敬語。④③参照。

⑨5買ってあげるわ。

母から娘への発話であるので、「～てあげる」となる（「～てやる」は、特に女性間では使われなくなっているようだ）が、敬意を含む言い方、つまり謙譲表現では、「～てさしあげる」となる。（第27巻参照）

■生活・文化

三人の焼き物の扱い方に注意。われないよう、静かに、丁寧に扱っているのがわかる。持ち歩くときには胸の高さに、かかるように、見分するときは両手で。ガチャンと置いたりしてはいけない。また、ウインドーから焼き物を出す際、店員が両手で静かに戸を開けていることにも注意させる。

お金を受け取る：店員がお金を受け取るとき、両手で受け取り、会釈していることに注意。客に対する敬意もあるし、お金を大切にする気持ちの表れもある。

品物を包む：ふつう、日本では、スーパーマーケットを除いて、個人商店でも、デパートでも、商品はきれいな紙に包まれる。高価なものは、化粧箱に入れてくれ、そうでないものでも、頼めば箱に入ってくれる。

IV 4	母 ⑨ おいくらですか。 店員 ⑩ 一万円いただきます。 母 ⑪ はい（金を渡す）。 店員 ⑫ ありがとうございます。	
IV 5	恵美子 ⑬ 向こうへ行ってみましょうよ。 ⑭ ねつ。	清水寺

■語彙・表現

おいくらですか：値段をきく際、ただ「いくら？」というよりも「お」をつける人が多い。特に女性。

一万円いただきます：買い物の精算時に使われる。一種の店員用語。

ねつ：念を押す意味の間投助詞であるが、ここでは、母や夫に対する甘えや、楽しい気持ちが表れていると思われる。

■留意点

買い物の場面などで使われる、「～を見せてください。」「かしこまりました。」「どうぞ、ご覧ください。」「別々に包んでください。」「おいくらですか。」「～円いただきます。」などは、定型性の高い表現である。母が、ひとつひとつの品物の値段もたしかめずに、いきなり一万円払ってしまうのは、少々不自然である。もちろん、品物それぞれに「おいくらですか。」と聞いてよいのである。

■生活・文化

清水の舞台：きよみづ清水寺の境内と、本堂の景色が映る。この本堂が、「清水の舞台」といわれるところである。崖の斜面に巨木を組み合わせて造った懸崖造りと呼ばれるもので、素晴らしい景色が眺められる。下をのぞくと非常に高いので、決心して何かをすることを、「清水の舞台からとびおりたつもり」という。

修学旅行：清水寺を見る三人の後ろに、修学旅行の一団がいる。中2、高2、小6の春、または秋に、学校行事として小旅行が行われる。特に、5、6月や、10、11月ごろの京都、奈良は、修学旅行のシーズンである。

バスガイド：観光バスには、社員として教育を受けた若い女性が、ひとりずつ、ガイドとして乗りこみ、名所の説明や案内をしてくれる。彼女は制服を着、旗を持っているので、日本の名所、旧跡は、そういう女性に連れられた団体観光客がたくさん目につくのである。

第30卷

せんせいを

おたすねします

— 待遇表現 2 —

目的・構成

1 目的

第29巻に引き続き、敬語・敬意表現およびそれに伴う非言語行動を、具体的な人間関係の中で理解する。第29巻より敬語を多用する場面での表現が取り上げられている。

2 構成

学習内容は第29巻の続きである。大学講師の小川清が林教授から紹介された木村教授に会う場面、清夫妻と妻の母が奈良見物する場面、清が木村教授宅を訪ねる場面、さらに清と木村教授が平城宮跡を散策する場面からなる。

	文	場 面	ス ト ー リ ー	学 習 項 目	カウント
I	① ↓ ⑬	大学の前	清、林教授に木村教授への紹介を頼む。	「お～になる」 「ご～いただく」 「うかがう」 「よろしい」	
II	⑭ ↓ ⑯	清の研究室	清に木村教授来校の連絡が入る。	「まいる」	
III	⑯ ↓ ⑰	林教授の研究室	清、木村教授に紹介され、教授の御宅を訪問する約束をする。	「ご(お)～いたす」 「申す」 「～しておる」 「～させていただく」	
IV	⑲ ↓ ⑳	奈良見物	清夫妻と恵美子の母、唐招提寺などを訪ねる。	身内・外部の概念(1) 「ご覧になる」 「なさる」 「お+形容詞」 接頭語「お」 人を指す「方」	
V	㉑ ↓ ㉓	木村教授宅	1. 木村教授夫人、清を迎える。 2. 清、木村教授、歓談した後、平城宮跡へ向かうことになる。	応接の言い方 身内・外部の概念(2)	
VI		平城宮跡	清、木村教授、平城宮跡を散策する。		

学習項目

1 主要学習項目

① 待遇表現

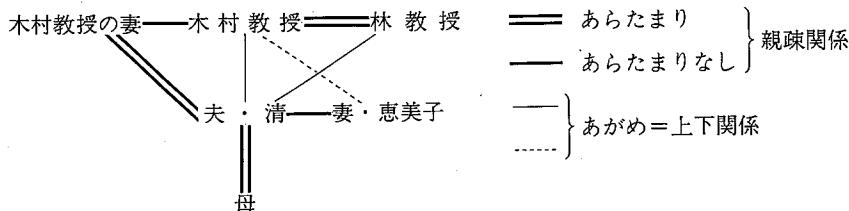
第30巻の学習目的は、第29巻で導入した待遇表現の確認定着と、より上の段階における待遇表現の導入にある。

第29巻の主要学習項目で述べたとおり、日本人が待遇表現を用いる目的はさまざまである。だが、初級段階の学習者に待遇表現を指導する際には、実際に学習者に使用してほしいものと、使用するにこしたことはないが単に日本人が使用するのを聞いて理解するだけでいいものを区別して指導することが望ましい。それは、待遇表現を用いて恩恵・へだてなど複雑な感情表現をするのはまだ困難であろうと思われること、また商売などにおける待遇表現のように外国人学習者はそれを聞くことは多いだろうが、そういった待遇表現を使用する機会は非常に少ないと思われるところからによる。第29巻は、おもに外国人学習者にもぜひ使用してほしい待遇表現を提出したが、第30巻は、職場における人間関係を扱ってさらに幅ひろい待遇表現を提出し、より上の段階の待遇表現の指導を目的としている。その個々の待遇表現を使用できるようにするか、理解の範囲にとどめるかは、学習者の職業や社会的地位などによって違い、一概にはいえないが、以上のこと踏まえて指導にあたるのが望ましい。

第30巻には、ある大学講師とその周辺人物をめぐる人間関係が描かれているが、待遇表現の指導という性格上、映写前に対人関係の説明が必要である。

ここでは、第29巻の主要学習項目の「敬語」で述べた、(a)および(b)、(c)の目的で待遇表現が用いられている。つまり、あがめ、人間性の尊重、あらたまり、である。外国人学習者には、このうち、あがめを「上下関係」、人間性の尊重、あらたまりを「親疎関係」で解説すると理解しやすいようである。

第30巻におけるおもな登場人物は6名であり、その人間関係は下記のとおりである。



清と林教授

職場における上司・部下。上下関係。

清と木村教授

この関係においては、清が立場的に下、木村教授が上という上下の人間関係が成立するが、これは次の理由による。

- a. 清が木村教授に助言をもらうという、いわば好意の授受において
- b. 講師と教授という社会的地位において
- c. 年齢

このうち、a.がおもな理由であり学習者にも理解しやすいだろうが、b、c.は直接上司・部下という関係がないので理解しにくいかもしれない。ことに、欧米の一部の国では年齢が身分の上下になんら影響をおよぼさないことがあるので、ふれておく必要がある。なお、恵美子は清の妻としての立場で木村教授との対人関係が生じる。

清と恵美子の母、木村教授と林教授

清と恵美子の母は、義理の親子という点であらたまつた関係であり、木村教授と林教授は社会的にあらたまつた関係であり、双方とも親疎関係である。

清と木村教授の妻

この関係は木村教授の奥さんであるという点で上下の関係、また、初対面でもあり、社会的にあらたまっているという点で親疎の関係、両方の関係がある。

清夫妻、木村教授夫妻、恵美子とその母

親疎関係の「親」の関係。それゆえ、敬語を用いず、「④……見たいと言っていたわ。」、「⑩、ここの屋根は、きれいね。」といったように、いわゆる普通体を用いている。学習者の中には、これをぞんざいな言い方ととらえ、したがって上下関係で夫婦・親子関係を考えてしまう者もいるが、ひと言ふれた方が望ましいと思う。実際にこの映画を使用する際には、一度にすべての人間関係を説明するよりも、個々の待遇表現の中で解説した方が学習者には理解の助けとなろう。

② 使用した敬語について

第30巻に提出されている敬語を含む表現を第29巻の分類にそって書き抜いてみると、次のようになる。

(1) 尊敬表現

- | | |
|-----------------|---------------|
| ④ 「おいでになりますよ」 | ⑤ 「なさっているの」 |
| ⑯ 「おいでになっています」 | ⑥ 「おあがりください」 |
| ⑮ ⑯ 「おいでになりますか」 | ⑦ ⑧ 「おかげください」 |
| ⑭ 「どこをご覧になりますか」 | |

(2) 謙讓表現

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| ⑦「ご紹介いただけませんか」 | ⑮「拝見させていただけませんでし
ょうか」 |
| ⑯「うかがいたいことがあるんですが」 | ⑯「おうかがいいいたします」 |
| ⑰「はい、うかがいます」 | ⑯「木村先生をお訪ねします」 |
| ⑯「すぐまいります」 | ⑯「小川と申しますが」 |
| ⑯「失礼いたします」 | ⑯「呼んでまいります」 |
| ⑯「ご紹介いたします」 | ⑯「拝見いたします」 |
| ⑯「小川と申します」 | ⑯「ごいっしょさせてください」 |
| ⑯「よろしくお願ひいたします」 | ⑯「おかまいったしませんで」 |
| ⑯「うかがいたいことがあるんですが」 | ⑯「おかまいたしませんで」 |

(3) 丁寧表現

- | | |
|--------------|----------------|
| ①「おはようございます」 | ⑯「ありがとうございます」 |
| ⑯「研究しております」 | ⑯「ありがとうございました」 |
| ⑯「調べております」 | ⑯「何もございませんが」 |

以上であるが、第29巻に提出されなかったものや十分に説明されていないものは、次のとおりである。

「まいる」

「いらっしゃる」が「行く・来る・いる」の尊敬語であるのに対し、「まいる」はその謙讓語。ただし、「いる」という意味はない。丁寧語化の傾向にある。「まいります」の形で用いられる。

「申す」

「いう・はなす」という意味の謙讓語。よく似たことばに「申し上げる」があるが、「報告する・告げる」という意味合いが強く、この場合の「申す」とは言いかえることができない。

「拝見する／いたす／させていただく」

「拝見」は「見る」の謙讓語で、敬意の程度により下に続く語に違いがある。

「ご覧」⑯を参照。

「～させていただく」

使役の形と授受表現が複合した形で、敬意の非常に強い言い方である。話し手が自らすんで行う行為であっても、その行為を話し手が勝手にするのではなく、聞き手の承認・許可を期待し、その承認・許可のもとに行うという意味である。すべての学習者がそういった文法説明する理解するのは難しいだろうが、詳しい文法説明を省き敬意の強い表現であることを教えるのみでもよいだろう。

「うかがう」

「うかがう」は、「聞く、訪ねる」の謙讓語である。⑯、⑯、⑯、⑯参照。

③ あいさつ

話のはじめやしめくくりに用いられるあいさつは短いが、コミュニケーションに与える影響は非常に大きい。たとえば、「先日はどうも」というひと言が日本語ができる、という第一印象を与えることがある。第30巻にもいくつかのこういったあいさつが出てくるが、そのうちの次のようなものは実際に使えるよう指導したいと思う。特に、実務に携わっている学習者には有益となろう。

「失礼します（いたします）」（「いたす」は丁寧語化の傾向にある。）

1. 礼儀に反することをこれからしたり、すでにしてしまった場合の詫びのことば。（この場合は、「失礼しました。」となる。）「ごめんなさい」や「すみません」などと言いかえができる。「ごめんなさい」は目上にはあまり使わず、「すみません」の方が一般的。

2. 入室・退室・退社などのあいさつ

清の②①、⑤⑤、⑥⑥、⑨⑨のことばがこれにあたる。学習者には、入室の際には、「こんなにちは」などのあいさつや、退室・退社の際には「さようなら」がなじみが深いかもしれないが、社会人、特に企業内においては「失礼します」の方が使われる。

「～と申します」

「申す」は「言う」の謙譲語であるが、自己紹介などのときには社会人らしいあらためた表現であり、折り目正しい印象を与える。④参照。

「よろしくお願ひします（いたします）」

初対面などのときに、けんそんして、今後、交際していくうえで助言や協力を頼みます、といったような意味合いで使われる。身内を紹介する際にもいう。⑤参照。

「おそれいります」

おもに相手の好意に対して恐縮したときのことば。「すみません」より丁寧。⑥参照。

「おかまいなく」

動詞「かまう」を名詞的に使ってそれを打消した言い方。「かまう」には、気にかかる、という意味があり、あまりもてなさないでください、という意味。ただし、上位者に対しては、失礼にあたる、という意見もある。⑦参照。

「何もございませんが」

ごちそうを準備していても、謙虚にいうきわめて日本の言い方。⑧参照。

使用にあたって

効果的な使い方

① 待遇表現の選択

(1) 非言語的な待遇表現の指導について

待遇表現というのは、単にことばの意味や動詞などの変化形を習得しただけでは十分とはいえない。ちょっとしたしぐさやものごしが、自分の好意や敬意を伝えたり、あるいはあらぬ誤解を招いてしまうことがある。学習者は社会的に地位のある人と接する機会が多いと思うが、そうした人たちとよりよいコミュニケーションをはかるためには、ぜひとも非言語的な待遇表現をマナー・エチケットとして学習しなければならないだろう。この第30巻に現れる非言語的な待遇表現については、そのつどふれておいたが、しかしこうした非言語的な待遇表現はあくまでも日本人同士でかわされるものである。外国人がそれと全く同様の振舞いをすると、かえって異和感を与える。文化・習慣の違いを無意識のうちに認め、許容しているからである。指導する際に教師の方で学習者に必要なものだけを解説すればよかろう。

(2) 実践による待遇表現の指導

待遇表現は、言語・非言語両面の理解・習得がなされなければ意味がない。実際のコミュニケーションにおいては、このふたつの要素は決して切り離して考えられるものではない。また、その場で「どう言うか」でなくて「何を言うか」も待遇表現として重要な側面である。

そこで、ロール・プレーなどで、学習した言語・非言語の待遇表現を実際に学習者に使わせることが必要である。たとえば、先生や保証人など目上の人を訪ねて何か依頼する、相談する、誘う、断わる、あるいはセールスマンやホテルのボーイと客とのやりとり、などといった状況を設定し、学習者をそれぞれの役に振り分けて実践させるのが望ましい。

その一例を次に示す。いつも顔をあわせるクラスメートとではなかなか緊張した雰囲気が得られない場合などは、できることなら、直接授業に関係ない学校関係者などに協力を求めてもいいだろう。

自動車のセールスマントとその客の会話

客：すでに大まかな説明を聞いており、基本的にはそのセールスマントから自動車を買うつもりである。しかし、その前にパンフレットを見せてもらい細部の説明を請う。そして、試乗を要求する。「です・ます」体、普通体どちらでもよい。また、若干の敬語や応接の際のあいさつも使う。

セールスマント：客の要求に好意的に応じ、細部の説明および試乗を受け入れる。敬語を使って話を進めていく。

場面 1

セールスマンが客の家を訪問する。夫人が出、応接間にとおし、主人を呼びに行く。

訪問したときのあいさつ

- ・ごめんください。
- ・～ともうしますが、～さんいらっしゃいますか。
- ・失礼いたします。 など

訪問を受けたときのあいさつ

- ・お待ちしておりました。
- ・どうぞおあがりください。
- ・どうぞおかげください。 など

場面 2

主人あらわれ、簡単にあいさつをかわす。夫人、お茶を持ってきてすすめる。夫婦で、パンフレットを見せてもらい細部の説明を請う。説明は、おもに、性能、付属品など、価格について。

(事前に簡単な自動車のことばをクラスで説明しておき、欧米系の学生が多い場合は、外来語を使って語彙的な負担を少なくする。価格なども決めておく。)

- ・やあ、どうも。
- ・どうぞ、おかまいなく。
- ・何もございませんが。
- ・めしあがる いただく。など

自動車の細部の説明においておもに、「お～する」の謙譲語、「お～になる」の尊敬語／拝見する ご覧になる など

場面 3

話はおおむねまとまり、夫婦が試乗を請う。セールスマン、受けいれる。

場面 4

セールスマントークン退出。夫婦で玄関まで見送る。

退出の際の応接

- ・どうも、ごちそうさまでした。
- ・何もおかまいいたしませんで。
- ・失礼いたします。
- ・ごめんくださいませ。

シナリオに沿って

I 1	清 ① 林先生、おはようございます。 林 ② ああ、小川君。おはよう。 ③ あっ、そうだ。 ④ 今日の午後、木村先生がおいでになりますよ。 清 ⑤ 奈良の木村先生ですね。 林 ⑥ ええ。	大学の前
-------------	--	------

■語彙・表現

あつ、そうだ：何か思い出したりしたときに、ひとりごとのにいう。

奈良：p. 96 参照。

■文法

①林先生、おはようございます。 ②ああ、小川君、おはよう。

①は清から林先生（上司）への朝のあいさつ。それに対して、林教授は清を「君」と呼び、また、「おはよう」ですませている。

④木村先生がおいでになりますよ。

「おいでになる」は、「行く、来る、いる」の尊敬語で、ここでは「お+動詞（連用形）+になる」に分析しないで扱う方がよい。「いらっしゃる」とほとんど同じである。ここでは、「来る」の意味。⑯、⑯参照。

■留意点

林教授は②のあいさつの後、④からは「です・ます」体を使っている。「です・ます」体はふたりの関係がまだそれほど「親」でないことをおのずと表している。③は、独り言的なので、普通体なのである。

■生活・文化

清がおじぎをしている。日本ではさまざまなあいさつと同時に軽く頭を下げるのが一般的である。あまり深くおじぎをする必要はないが、目下の者は目上の人方がする前におじぎをするのがふつうである。この場合、目上の人方は必ずしもおじぎをしかえす必要はない。また、目下である清は、多少林教授の後から歩いていることにも注意。

I — 2	<p>清 ⑦ もしよろしかったら、ご紹介いただけませんか。</p> <p>林 ⑧ いい機会だから、紹介しましょう。</p> <p>清 ⑨ ありがとうございます。</p> <p>⑩ 木村先生にご意見をうかがいたいことがあるんですが…。</p> <p>林 ⑪ そうですね。</p> <p>⑫ それでは、2時ごろ、わたしの研究室に来てください。</p> <p>清 ⑬ はい、うかがいます。</p>	
II	<p>清 ⑭ はい、小川です。</p> <p>林 ⑮ ああ、小川君。</p>	清の研究室 電話

■語彙・表現

よろしかったら：「よろしい」は「いい」のあらたまつた言い方で、聞き手に向かって許しや了解を求める場合に用いる。したがって、聞き手とは直接関係ないこと、たとえば、自分の側について「母の病気がおるとよろしいのに」とか「弟のアパートはたいへんよろしい」などという使い方はできない。
 そうですね：ここでは、躊躇している場合や考えている場合の使い方。

映像 ⇄ 校門 時計台

■文法

⑦ご紹介いただけませんか。

「ご／お+漢語／動詞+いただけませんか」の形で用いている。こうした行為を好意と感じ、そうしてもらうことを期待・依頼するという意味。

⑧紹介しましょう。

「～しましょう」の用法は、ふたつに大別される。ひとつは話し手と聞き手がいっしょに何かする場合の提案、もうひとつは話し手が聞き手のために何か好意的なことをしてあげるときのうかがいをたてる場合の申し出である。ここでは、後者の意味。

⑩うかがいたいことがあるんですが……、⑬はい、うかがいます。

「うかがう」は謙譲語。⑩は「たずねる（質問する）」という意味、⑬は「訪れる」という意味である。

⑩の「～ですが……」は言いだしにくいことや恥ずかしいことなどを口にするとき、躊躇を表すために用いる。「いいですか／かまいませんか」などが省略されている。

II	林	⑯ 木村先生がおいでになっています。	
	清	⑰ はい。すぐまいります。	
III — 1	林	⑱ 今度は、いつおいでになりますか。	林の研究室
	木 村	⑲ そうですね、来月の中ごろに。	
	林	⑳ どうぞ。	
	清	㉑ 失礼いたします。	

■語彙・表現

そうですね：躊躇・考慮を表す。(11)参照。

映像 ⇒ ついたて ソファー

文法

⑯木村先生がおいでになっています。

この場合は、「いる」の尊敬語。④参照。

⑯すぐまいります。

「まいる」は「行く、来る」の謙譲語で、この場合は「行く」の謙譲語。

⑯いつおいでになりますか。

この場合は「来る」の尊敬語。④、⑯参照。

②失礼いたします。

ここでは入室のあいさつ。「～する」を「～いたす」にすると、さらに丁寧な言い方になる。

■ 留意處一

通常、電話では話の初めに「もしもし」というが、事務的連絡の場合には冗長になるため言わないことが多い。特に、電話を受けた場合に言うことはまれである。疑問を持つ学習者には説明した方がよからう。

■ 生活·文化

清と同僚らしい人が上着を脱いで仕事をしている。服装にうるさい日本のビジネス社会においても、社内では、特に執務中は上着を脱いでもかまわない。服装の個性化が徐々に進んではいるが、まだまだグレーや紺・白などの地味な色の服装が好まれる。

ノックしてから入室する。ノックは2回がふつう。目下の清は、立ったまま軽く前で手を組んでいる。あまり大きな手振りは一般的ではない。座っている場合も基本的には同様である。

III 1	林	㉒ 木村先生、ご紹 <small>ひ</small> 介 <small>けい</small> いたし <small>まつ</small> ます。
	清	㉓ こちらが、講師の小川清君です。
	木村	㉔ 小川と申します。
		㉕ よろしくお願 <small>ねが</small> いいたし <small>まつ</small> ます。
III 2	林	㉖ 木村です。
	林	㉗ さあ、そこへ。
	木村	㉘ 小川君は、今、奈良時代の建物について研究しております。
	木村	㉙ そうですか。

■語彙・表現

さあ：1.人に行動を促すとき、自分が行動を起こすとき。2.ためらうとき、よくわからないとき。ここでは2。

奈良時代：p.96参照。

■文法

㉒ご紹介いたします。 ㉓よろしくお願ねがいいたしまつます。

「ご／お／+漢語／動詞(連用形)+する／いたす」の形で謙讓を表す。「まいる」、「申す」など特別な謙讓の形を持つ動詞以外の、多くの動詞(一般に自動詞を除く)がこの形をもっている。あなたのためにわたしが～する、という意味合いが強い。

㉔小川と申します。

「申す」は、「言う」の謙讓語。

㉘研究してあります。

「～ておられます」は「～ています」の丁寧な言い方。

■留意点

ここにおいては、初対面のあいさつを一語一語解説することも必要であるが、談話として一連の流れにそって実際に学習者にさせながら指導するのが望ましい。人を紹介する場合、「こちらは～です」であって、「これは～です」とは言わない。

■生活・文化

人を紹介する場合は、まず目下を目上に紹介しなければならない。

目下である清は許されるまで立ったままである。目上の木村教授は、それを察して座るようすすめている。

III 2	清 ⑩ よろしかったら、ご意見をうかがいたいことがあるんですが…。 木村 ⑪ わたしにわかることでしたら…。
	清 ⑫ 今、奈良時代のかわらについて、調べております。
	木村 ⑬ あっ、かわらの写真ならわたしのうちにありますよ。
	清 ⑭ そうですか。
III 3	清 ⑮ 拝見させていただけませんでしょうか。 木村 ⑯ ええ、いいですよ。 ⑰ うちへ来てくれますか。

■語彙・表現

～んですが……／～ことでしたら……：中止法。ためらい、はじらい、謙譲などを表す。好意的にみられることが多い。

かわら：p.94参照。

■文法

⑩ご意見をうかがいたいことがあるんですが、……。

「ご」は尊敬語。「うかがう」はここでは「聞く(質問する)」の意の謙譲語。

⑫調べております。

「～ております」は「～ています」の丁寧な言い方。

⑬かわらの写真なら、わたしのうちにありますよ。

この「なら」は提題の「なら」。(第22巻参照)

⑮拝見させていただけませんでしょうか。

「拝見する」は「見る」の謙譲語であり、したがって使役をともなった「拝見させて」は、「見させて」であり、この「～させていただけませんか」は最高に敬意の強い言い方になっている。清の木村教授に対するお願いの気持ちの表れである。立場によっては二重(多重)敬語で誤りだという指摘もある。

⑰来てくれますか。

わざわざ奈良の自分の家へ足を運んでもらうことになるため「～てくれますか」と言っている。(第27巻参照)

■留意点

「よろしかったら、……」の言い方はよく使うので練習するとよい。(7参照)。

■生活・文化

この場面では皆、足を組んでいない。組んでいけないわけではないが、特に目下の者が足を組むのは尊大な印象に結びつき、好ましく思われない。

III 3	清	③⁸ ありがとうございます。	
	木村	⑨ 先生のご都合のよろしいときに…。	
IV 1	清	⑩ では、あさっての3時ごろは、どうですか。	薬師寺の前
	清	⑪ はい、けっこうです。	
IV 1	清	⑫ では、3時におうかがいいたします。	
	恵美子	⑬ お母さん、次は、どこをご覧になりますか。	
		⑭ 母は、唐招提寺が見たいといっていたわ。	
		⑮ ね。	

■語彙・表現

ご都合：尊敬語としての「ご」。「都合」は、そのときの事情。

けっこう：「けっこう」は基本的に次のような意味がある。1. すぐれている、立派だ。「けっこうな料理」「けっこうな家」2. 十分だ、満足できる状態だ。「もうけっこうです」「それでけっこうだ」3. (副詞的に) 十分ではないが一応満足できる、まあまあだ。「けっこういい家」。ここでは2.の意。

唐招提寺：p.94参照。

ね：相手の気持ちや意見を確認したり、また同意を求めたりする場合などに使われるが、ここでは、恵美子が母に以前聞いたことを確認している。強く言うと「ねえ」「ねっ」となる。

映像 ⇒ 薬師寺東塔

■文法

④おうかがいいたします。

「うかがう」自体が謙譲語であるが、それをさらに「お+動詞(連用形)+いたす」の形にしている。「する」のかわりにけんそんの度の強い「いたす」を使い、木村教授のお宅を訪ねるということを強く感謝の気持ちで表している、と説明できるだろう。

⑤ご覧になりますか。

「ご覧になる」は、「見る」を意味する尊敬語。謙譲語は「拝見する」である。

⑥参照。「見る」は、「お見になる」とはいわない。「ご覧になる」は、⑦「見たい」と対照すること。(第29巻、⑩参照)

IV 1	清 ④⁶ じゃ、そうしましょう。 母 ④⁷ ええ。	
IV 2	母 ④⁸ この屋根は、きれいね。 恵美子 ④⁹ そうね。 清 ⑤⁰ そろそろ、木村先生をお訪ねします。 母 ⑤¹ ああ、そうでしたね。	唐招提寺

■語彙・表現

そろそろ：あることが行われるまであまり時間がない様子。そのときになりかかった様子。

■文法

⑤⁰木村先生をお訪ねします。

「お+動詞（連用形）+する」で謙譲表現となる。直接、木村教授と話しているわけではないため、「いたす」は用いていない。また、②の「ご紹介いたします」とは違い、眼前のあなたのために、という意味合いでなく、訪ねる対象である木村先生に敬意が向けられているものである。

■留意点

ここでは、登場人物の親疎間係の意識、ウチ・ソトの意識に注目させなければならない。恵美子と清は夫婦であり、また恵美子と母は実の親子である。どちらも身内同士の関係であり、ウチの意識をもっている。したがって、普通体で話をしている。しかし、清と母は義理の親子であり互いにソトの意識をもっている。それがあらためとして表れ、敬語あるいは「です・ます」体で話をしている。このウチ・ソトの意識は個人によって違い、一概にはいえないが、日本人の対人意識が待遇表現の違いとして表れていることを学習させるのが肝要であろう。

■生活・文化

唐招提寺：^{とうしょうだいじ}759年、聖武天皇の命により鑑真が創建した律宗の総本山。奈良市五条町。ここで三人が見ているのは唐招提寺の金堂。創建当時の遺構で天平期の様式を代表している。屋根が、かわらであることに注意。

かわら：建物の屋根を覆う、粘土を焼いて固めたもの。中国をつうじて6世紀の後半に日本へ伝わった。初めは高級品であったが、その後江戸時代ころからしだいに普及した。

IV 3	恵美子	(52) 木村先生は、何のご研究をなさっているの。
	清	(53) 先生はね、こういう古いかわらにおくわしい方なんだよ。
	母・恵美子	(54) そう。
IV 4	清	(55) では、ここで失礼します。
	母	(56) どうぞ。
	恵美子	(57) もう少し見物して、夕方には帰るわ。
	清	(58) うん。
		(59) では、お気をつけて。
	母	(60) ええ。

■語彙・表現

おくわしい：尊敬語としての「お」。形容詞などに尊敬語・丁寧語として「お」「ご」がつく例はあまり多くないが、「おひさしぶり」「お見事」「ご立派」「ごゆっくり」など、日常的なものでもいくつかある。

方：人を表す、敬意をもった言い方。

ここで失礼します。：この場合は、その場を自分の都合で離れるときのあいさつ。

どうぞ：相手の申し出に対するやや丁寧な受け入れ（承認）。

見物：趣味・娯楽として観光しながらものを見ること。何か学ぶ場合は、「見学」。

（お）気をつけて：「注意してください」が基本的な意味。「お～」は尊敬語的用法。

危険な作業を見守るとき、人を送り出すときなどに使う。

映像 ⇒ 築地(ついじ)埠

■文法

⑤3何のご研究をなさっているの。

「ご」は尊敬語。「なさる」は「する」の尊敬語。終助詞「の」は、聞き手の清に向けられたもの。女性が多く使う。あらたまつた場面や目上には使わない。

■生活・文化

清が恵美子親子と別れるときのおじぎに注意。軽く手を体の横においておじぎをする。これは立っているときのややあらたまつたおじぎである。女性の場合は、前で手を重ね合わせるのがふつうである。

IV 5	猿沢の池にそって歩く清	(せりふなし)
IV 6	大仏を見る恵美子、母	(せりふなし)
V 1	清 ⑥① ごめんください。 夫人 ⑥② はい。 清 ⑥③ 小川と申しますが、先生は、おいでになりますか。	

■語彙・表現

ごめんください：人を訪問した際、ドアなどを開けて家人を呼ぶときのあいさつ。

「ここにちは」より丁寧。

映像 ⇒ 玄関 かめ(瓶)

■文法

⑥③小川と申しますが、先生は、おいでになりますか。

人の家を訪問したときにはまず自分の名を名のり、相手が在宅かどうかきく。

「申す」は「言う」の謙譲語。「おいでになる」は、「いる」を意味する尊敬語。

④、⑯参照。

■留意点

場面IV-5、IV-6には、せりふがない。文化紹介として猿沢の池、奈良の大仏を紹介することもできる。

■生活・文化

奈良：近畿地方の都市。奈良県の県庁所在地。

奈良時代（710年～784年）： 平城京、すなわち現在の奈良県北部大和盆地に都がおかれていた時代。天皇を中心に貴族が律令制度（律は刑法、令は行政法などに相当する）のもとに社会経済や文化を指導した。文化は、天平（てんぴょう）年間に最も盛んとなり天平文化と呼ばれる。大陸文化・仏教文化の影響が強い一方、大和民族の文化も盛んになった。万葉集、日本書紀、古事記などの編集が行われ、東大寺や唐招提寺が建てられたのもこのころである。

猿沢の池： 奈良市奈良公園内にある池。もと興福寺の放生池。場面IV-5の後方に見えるのは、五重塔。

奈良の大仏： 場面IV-6後方の仏像。東大寺の本尊盧遮那（るしゃな）仏座像。銅像、14.9メートル。奈良時代は、後期になると中央・地方ともに政治が乱れ、しかも疫病が流行した。そこで、聖武天皇が国家的事業として創建した。清がドアを開けてから「ごめんください」といっている。現在、インターネットが普及して門の所で訪問の意を告げることが多くなってきたが、それがない家庭ではいきなり戸やドアを開けてもそんなに失礼にはならない。

V 1	夫人 ⑥4 ああ、お待ちしておりました。 ⑥5 どうぞ、おあがりください。 清 ⑥6 失礼いたします。
V 2	夫人 ⑥8 どうぞ、おかげください。 清 ⑥9 はい。
V 3	夫人 ⑦0 今、呼んでまいります。 木村 ⑦1 やあ、どうも。

■語彙・表現

失礼いたします：人の家におじゃまするときのあいさつ。→「おじゃまします」。
 やあ、どうも：「どうも、ありがとうございました」や「どうも失礼しました」を縮約した表現。頻繁に使われる。あまり意味もなく慣用句に使われることも多い。

■文法**⑥4お待ちしておりました。**

「お+動詞（連用形）+する」で謙譲、さらにそれに「～ています」のかわりに「～ております」が加わり丁寧な言い方となっている。自分がその人の訪問を期待していた旨告げ、好意を示す言い方であり、広く慣用的に使われる。

⑥5おあがりください。

「お／ご+動詞（連用形）／漢語+ください」の形で、人に何かすすめたり、何か依頼する場合の尊敬した言い方。

⑦0呼んでまいります。

「まいる」は「行く、来る」の謙譲語。ここでは「来る」の謙譲語。

■留意点

文法の説明のみに固執せず、ロール・プレーなどで実際にやらせながら学習させることが必要である。

■生活・文化

日本の家に入る場合は靴を脱ぐ。脱いだ靴は、帰るときに、はきやすいようつま先を外に向けてそろえる。家人はスリッパをすすめる。

清が木村教授を待っている間、部屋の中を見回しているが、あまり感心しない。ただ、清の研究に関係ある珍しい古美術などが飾ってあってそれを眺めているのかもしれない。

V 4	清	(72) おとといは、ありがとうございました。
	木村	(73) どうぞ、おかげください。
	夫人	(74) どうぞ。
	清	(75) おそれいります。
		(76) どうぞ、おかまいなく。
	夫人	(77) 何もございませんが、どうぞ、ごゆっくり。
	木村	(78) さつ、どうぞ。

■語彙・表現

おそれいります：夫人がお茶と茶菓子を勧めてくれたことに対して恐縮した気持ちを表している。

どうぞ、おかまいなく：こうしてくださるだけで十分です、そんなにもてなさないでください、という意味。訪問の際、お茶やお菓子などを出されたときなどの、お礼の表現。

何もございませんが：「ございません」は「ありません」の丁寧語。特別なごちそうは何もない、の意味。実際に十分もてなしの用意をしていても使う謙虚な言い方。よく使われる。

どうぞ、ごゆっくり：客にくつろいでほしいときに用いる。

映像 ⇒ お盆 茶卓 和菓子

■文法

(73) どうぞおかげください。

「お／ご + 動詞（連用形）／漢語 + ください」の形で人に何かを勧めたり、何か依頼する場合の尊敬した言い方。

■留意点

人と会うときは、(72)のようにこの前、その人と会ったときのことをもち出し、お礼を述べたりする。→「おとといは、失礼しました。」

■生活・文化

清は木村教授の入室と同時に席を立ちあいさつする。そして、木村教授が座るよう勧める。木村夫人は膝をついてお茶と茶菓子を勧めている。相手が座っている場合、立ったままものを勧めるのは失礼であり、また中腰で勧めるよりもこちらの方が丁寧である。これは座るのを作法とする和式生活の名残りであろうか。また、お茶などは客から勧めるのが礼儀である。

V 4	清	⑦9 いただきます。
	木村	⑧0 これなんですよ。
	清	⑧1 拝見いたします。
	木村	⑧2 もし、よかつたら、今からそこへ行ってみませんか。
	清	⑧3 よろしいんですか。
		⑧4 ぜひ、ごいっしょさせてください。
	木村	⑧5 ええ。
	清	⑧6 どうも。
	木村	⑧7 じゃ、行きましょうか。
	清	⑧8 はい。

■語彙・表現

もし、よかつたら：「もし、(清の)都合がよかつたら～」の意味。相手の意向を聞いているので、丁寧な言い方になる。

■文法

⑦9いただきます。

「いただく」は、この場合「飲食する」の謙譲語。

⑧1拜見いたします。

「拜見する」は「見る」の謙譲語。さらに、「する」のかわりに謙譲語の「いたす」を使って聞き手に対する敬意の強い表現となっている。

⑧2行ってみませんか。

「～てみる」は、実際に見るというよりも、いいかどうか、おもしろいかどうかなどを確かめるといった意味。したがって、漢字で「行って見る」とは書かないことが多い。(第13巻、17巻参照)

⑧4ごいっしょさせてください。

「ごいっしょする」は慣用的な表現で、目上の人についていく、連れていってもらう、という意味である。それに敬意の強い「～させてください」が複合している。

■生活・文化

清は木村教授に勧められてから、お茶に口をつけている。また、林教授の研究室のときは同様、ふたりとも足を組んでいない。

退出のときは特に決まっているわけではないが、家人がドアを開け客を通してやるのがふつうである。

V — 5	木村 ⑧⁹ ちょっと行って来るよ。
	夫人 ⑨⁰ はい。
	清 ⑨¹ どうもごちそうさまでした。
	夫人 ⑨² いいえ、何もおかまいいたしませんで…。
	清 ⑨³ 失礼いたします。
	夫人 ⑨⁴ ごめんくださいませ。

■語彙・表現

どうもごちそうさまでした：お茶と茶菓子を出してくれたこと、また食べたことに対するお礼のあいさつ。

何もおかまいいたしませんで：⑦の清のことばに「おかまいなく」があるが、それと同様に、「かまう」は「もてなす」の意味。実際に、お茶や茶菓子を出しているのだが、訪問してきた客を帰り際に見送るときによく使う。また、忙しかったりして本当にもてなすことができなかつたときにも、この表現や「何もおかまいできませんで……」を使う。「～で……」はこの場合、省略できない。
失礼いたします：辞去のあいさつ。ふつうは、人を訪問した方がいう。

ごめんくださいませ：辞去のあいさつ。人を訪問した方も訪問を受けた方も使うが、かなり目上の人を相手にする場合や非常にあらたまつた場合にいう。現在は若い人の間ではあまり使われない。夫人の清に対するあらたまつた気持ちを表している。「ませ」（「まし」とも言う。「ます」の命令形から）は、女性の方がよく使う。→「いらっしゃいませ。」

■留意点

ここにおいては、木村教授は夫人に家族として平易な形で話しかけている。本来なら夫人も「うん」と答えて親しみを表すべきかもしれないが、年配の人には一般的ではない。第三者の前ではこのようなへだたりのあるような表現を使う。

■生活・文化

客が帰るときは、家人は玄関まで見送りに来る。

■生活・文化

平城京：^{へいじょうきょう}710（和銅3）年に古代日本における最初の本格的な都市として建設された。都の南正面中央に羅生門があり、そこから朱雀大路が北に延び、北端正面に平城宮がおかれた。都の中は大路と小路で碁盤の目のように区画され、役人などの居住地があり、官営の寺院や市も設けられた。大小の建物が建ち並び、活気がみなぎっていた。人口はおよそ20万人と推定されている。

平城宮：宮の規模は、全体の面積がほぼ120haである。宮の周囲には、外濠と高さ約5mの築地塀をめぐらし、正門である朱雀門をはじめ、主要な道路に面して12の門を開いていた。宮内は天皇の居所であり、政務もおこなう内裏があり、このほか、東宮などのような宮室殿舎のある地域も含まれていた。宮城内の約半分の面積は、二官八省などの建物がたち並ぶ官庁街である。官庁街の大部分の建物は、堀立柱の簡素な規格的な建物であった。平城宮の北方には「松林苑・松林宮」と呼ばれる広大な苑地も設けられたという。

平城京・宮の調査：平城宮は、1954・1955年にごく一部の発掘調査をおこなったが、1959年から本格的に発掘を開始した。1963年には全域の史跡指定と国費による買収が決定したことから、同年より年間をとおして組織的な発掘調査を進めている。現在までの発掘終了面積は約28haで、全面積の3割弱を完了した。

平城宮跡の整備：発掘調査の終了した部分については地下遺構に基づいて順次整備している。建物は、その平面の規模に土壇を築いて芝生を張り、発掘でたしかめた柱位置にツゲの木を植えて標示している。礎石建物は芝張りした区内に礎石を配置して示している。資料館には発掘した遺物などの資料を展示し、遺跡博物館として保存整備を進めつつある。

（以上、平城京跡資料館のパンフレットを参考にさせていただいた。）

ふたりの歩く様子：I-1と同様に、清は木村教授の後からついていく形になっている。

『日本語教育映画 基礎編』 作成関係者

(指導・助言) 日本語教育映画等企画協議会委員 (所属は在任当時のもの)

池 尾 ス ミ (米加十一大学連合日本研究センター)

石 田 敏 子 (国際基督教大学)

今 田 滋 子 (国際基督教大学)

木 村 宗 男 (日本語教育学会)

工 藤 浩 (国立国語研究所)

窪 田 富 男 (東京外国語大学)

斎 藤 修 一 (慶應義塾大学国際センター)

佐久間 勝 彦 (東京外国語大学)

杉 戸 清 樹 (国立国語研究所)

(企画) 国立国語研究所日本語教育センター関係者 (在任当時関係者も含む)

野元菊雄 南 不二男 川瀬生郎 日向茂男 田中 望

清田 潤 中道真木男 林 大 武田 祈 水谷 修

(制作) 日本シネセル株式会社

この『教師用マニュアル』の企画・校閲・編集は国立国語研究所日本語教育センター日本語教育指導普及部教材開発室の日向茂男、清田潤が担当した。全巻にわたっての企画・校閲には中野泰子(アジア学生文化協会留学生日本語コース)、野村美知子(アジア学生文化協会留学生日本語コース)の両氏に多大な協力を得た。また印道緑、清地恵美子、戸川さやかの各氏に企画時の補助をお願いした。

このユニット6の原案執筆・検討には中野泰子、杉山太郎、伊勢田涼子、斎藤百合子、丸山敬介の各氏に助力を仰いだ。

日本語教育映画 基礎編 教師用マニュアル

ユニット6

1984年11月15日 発行

企画・編集 国立国語研究所

・発行 〒115 東京都北区西が丘3~9~14 電話(30)900-3111

印刷 日本シネセル株式会社

〒107 東京都港区赤坂1~9~15 電話(03)582-2691~4